

## 第2章 西宮市の健康づくりの現状と課題



# Ⅰ 市民の健康を取り巻く現状

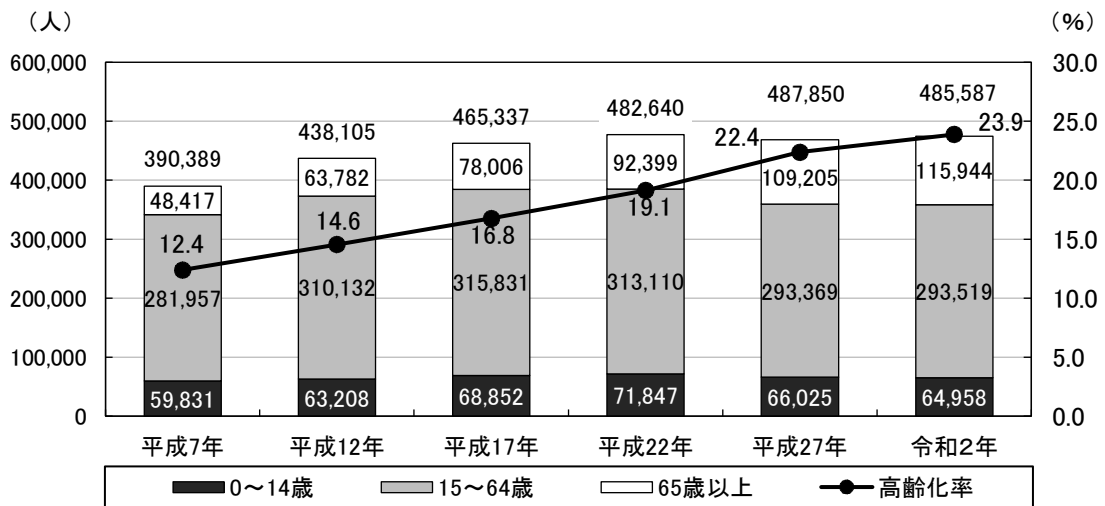
## (1) 人口の状況

### ① 人口

本市の人口は、平成27（2015）年まで増加し、その後横ばいで推移しており、令和2（2020）年時点で485,587人となっています。

年齢3区分別にみると、直近では年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少する一方で、老年人口（65歳以上）は増加傾向で推移しており、少子高齢化が進行しています。

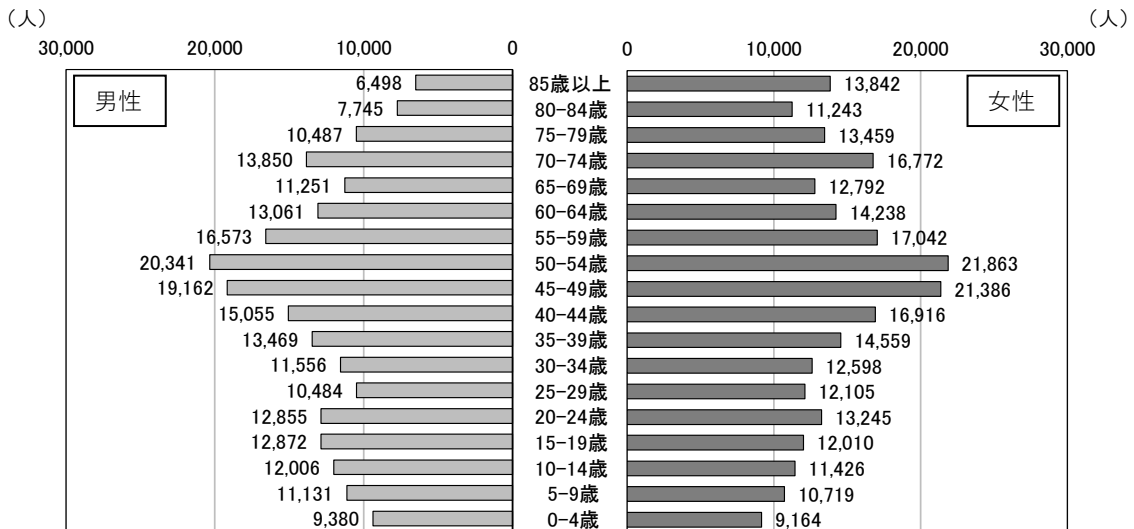
#### ■ 総人口・年齢3区分別人口の推移



※総人口には年齢不詳が含まれるため、各年齢層の合計と一致しない場合があります。

資料：国勢調査（各年 10月1日現在）

#### ■ 総人口・年齢3区分別人口の推移



資料：住民基本台帳（令和4（2022）年9月30日現在）

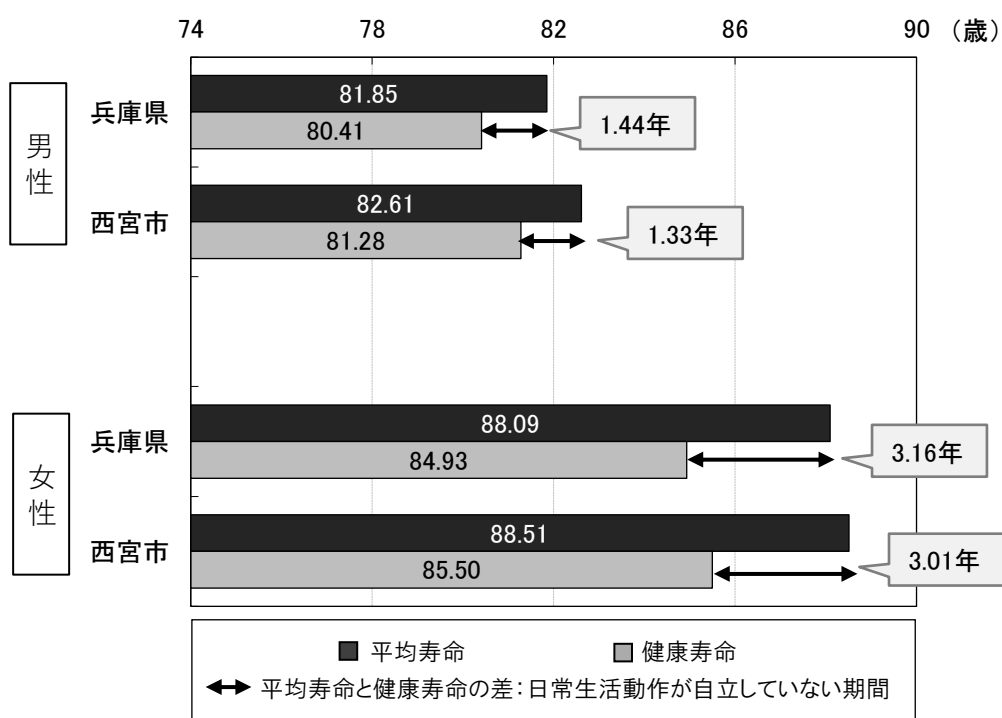
## (2) 健康寿命と要介護認定率

### ① 健康寿命

令和2（2020）年の本市の平均寿命は男性が82.61歳、女性が88.51歳となっています。男女とも県（男性：81.85歳、女性：88.09歳）よりも長くなっています。

男女ともに、平成27（2015）年よりも日常生活動作が自立していない期間が長くなっています（平成27（2015）年 男性：1.31年、女性：2.98年）。これは、平成27（2015）年よりも健康寿命が伸びているものの、それ以上に平均寿命が伸びているためと考えられます。

#### ■平均寿命、健康寿命、日常生活動作が自立していない期間(令和2(2022)年)



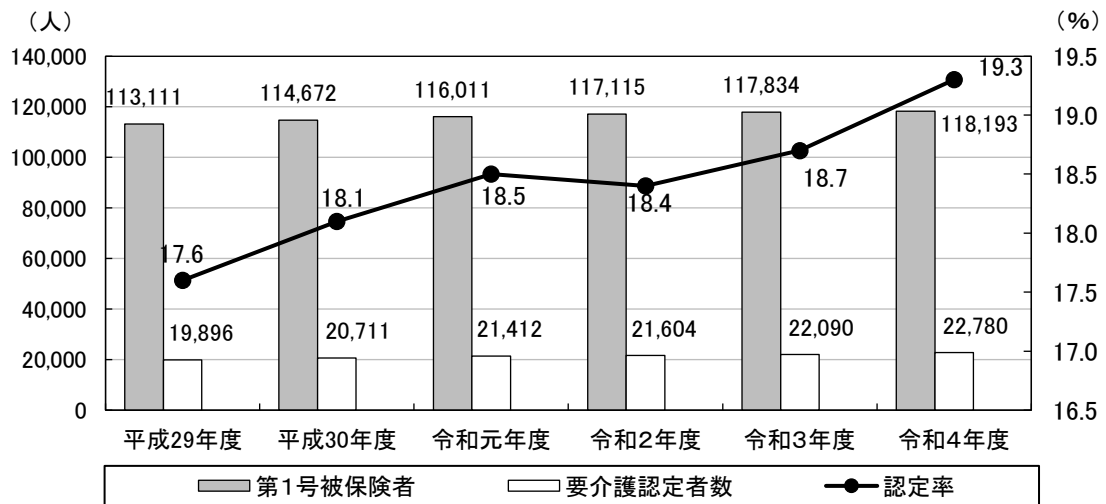
資料：兵庫県「兵庫県における健康寿命の算定結果」

## ② 要介護認定率

要介護認定率（第1号被保険者に占める第1号被保険者の要介護認定者の割合）は増加傾向で推移しており、令和4（2022）年度時点で19.3%となっています。

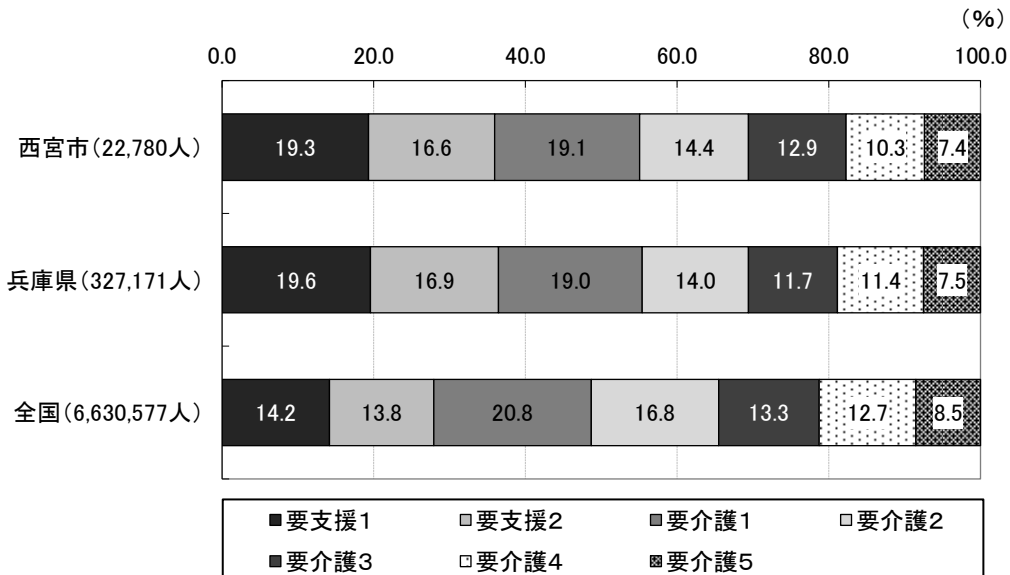
要介護度別構成比をみると、国よりも要支援1・要支援2の割合が高くなっています。軽度の段階で重度化防止に取り組めているため、国よりも軽度の割合が高く、重度の割合が低くなっていると考えられます。

### ■ 要介護認定率の推移



資料：介護保険事業状況報告書（各年9月現在）

### ■ 要介護認定者数及び要介護度別構成比



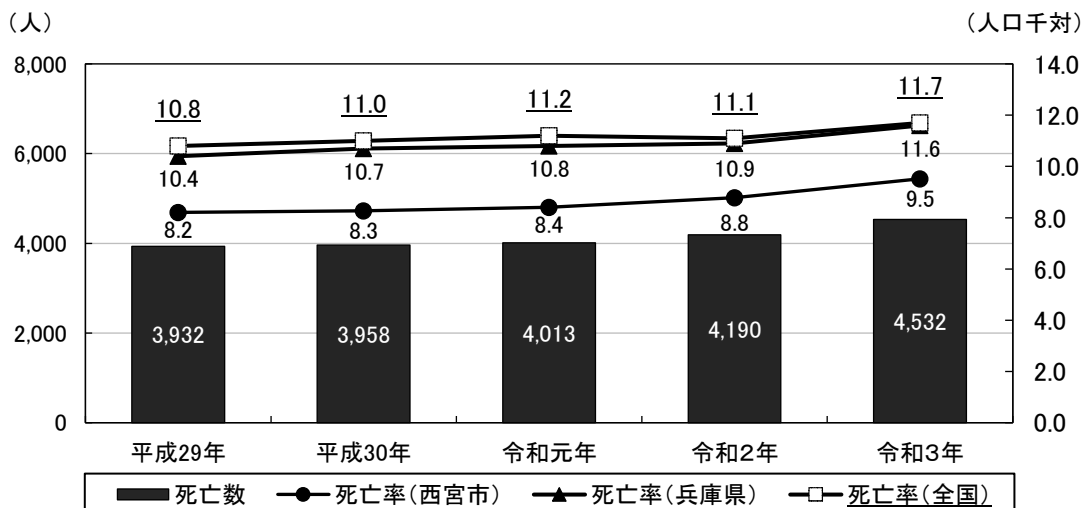
資料：介護保険事業状況報告書（令和4(2022)年9月現在）

### (3) 死亡の状況

#### ① 死亡数(率)の推移

死亡数、死亡率ともに概ね増加傾向で推移しています。一方で、国、県と比較すると、同じように増加傾向で推移しているものの、各年で死亡率が低くなっています。

■死亡数(率)の推移



資料:人口動態統計

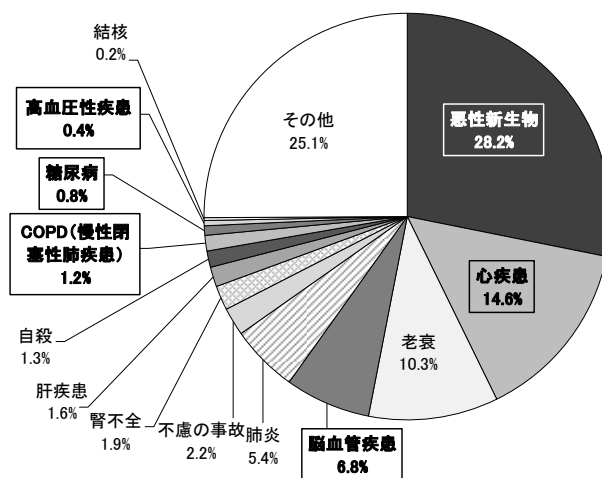
#### ② 死因別割合

令和3(2021)年の本市における死因の第1位は悪性新生物(がん)、第2位は心疾患、第3位は老衰、第4位は脳血管疾患となっています。

生活習慣病による死亡は、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、糖尿病、高血圧性疾患を合わせて全体の52.0%を占めています。

■令和3(2021)年 死因別割合

	全体	男性	女性
悪性新生物	28.2	32.1	24.0
心疾患	14.6	13.9	15.3
老衰	10.3	5.1	15.9
脳血管疾患	6.8	6.6	7.0
肺炎	5.4	6.2	4.6
不慮の事故	2.2	2.5	1.9
腎不全	1.9	2.1	1.7
自殺	1.3	1.4	1.2
COPD(慢性閉塞性肺疾患)	1.2	2.0	0.4
肝疾患	1.6	1.8	1.4
糖尿病	0.8	0.9	0.5
高血圧性疾患	0.4	0.5	0.4
結核	0.2	0.3	0.2
その他	25.1	24.6	25.5

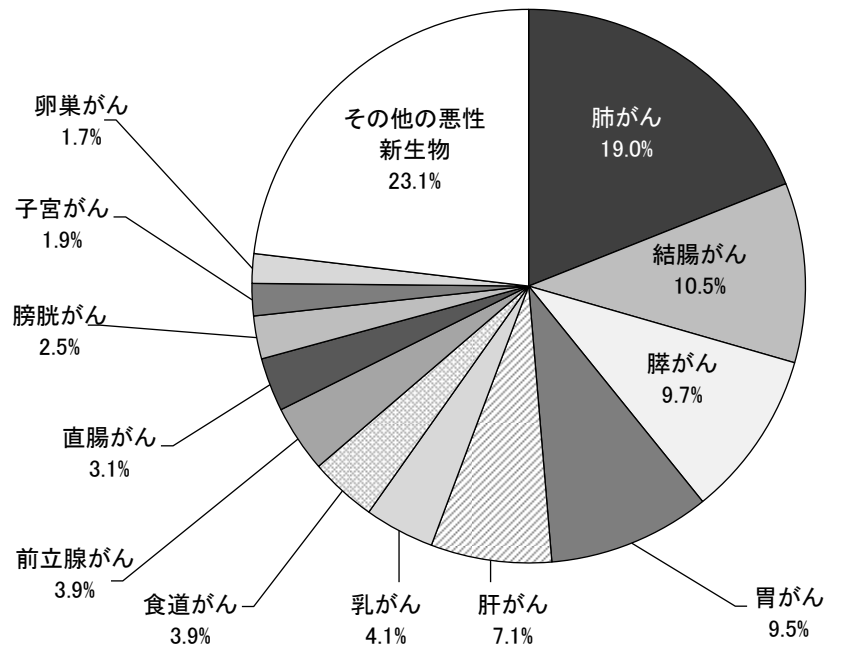


※太字は生活習慣病

資料:人口動態統計

死因の第1位である悪性新生物を部位別にみると、第1位は肺がん、第2位は結腸がん、第3位は膵がん、第4位は胃がん、第5位は肝がんとなっています。

■令和3(2021)年 悪性新生物による死亡数の部位別割合

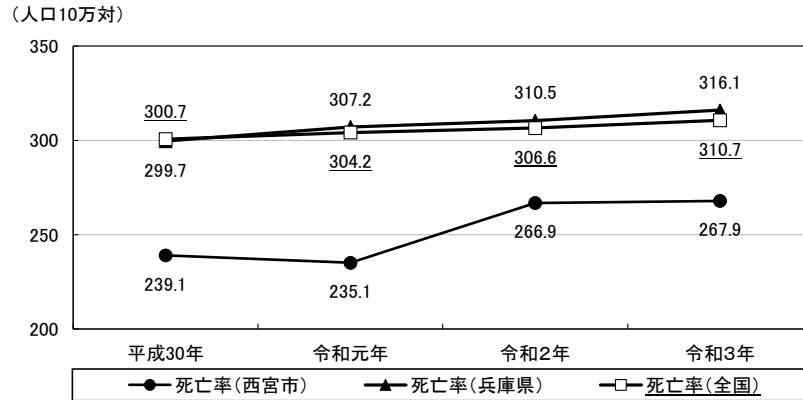


資料：人口動態統計

### ③ 主な生活習慣病の死亡率の推移

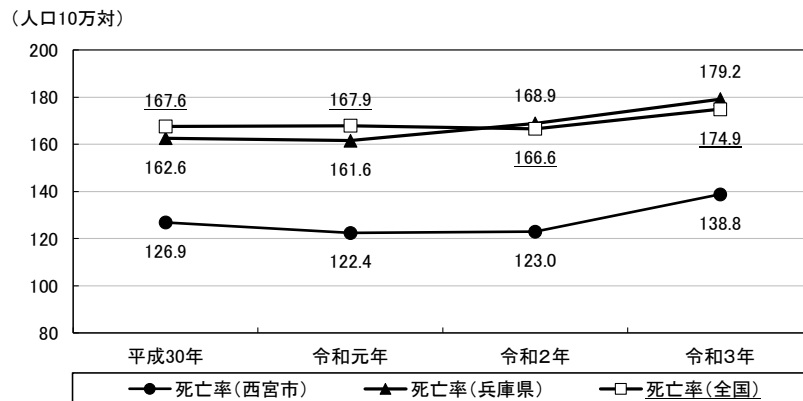
本市における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の死亡率は、各年で国、県よりも低くなっているものの、長期的にみると増加傾向で推移しています。

#### ■悪性新生物の死亡率



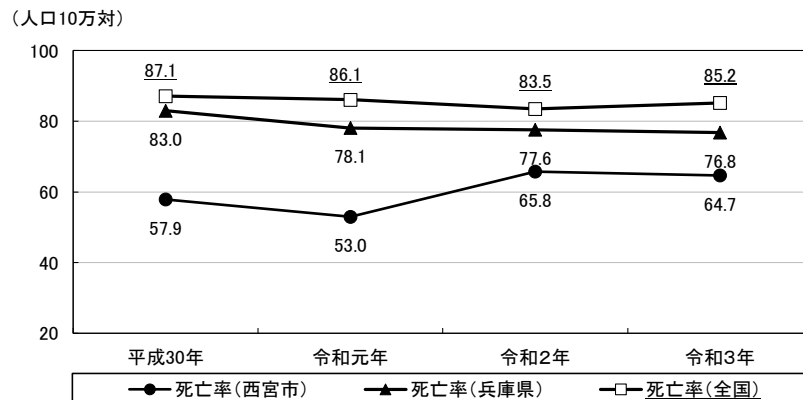
資料:人口動態統計

#### ■心疾患の死亡率



資料:人口動態統計

#### ■脳血管疾患の死亡率



資料:人口動態統計

#### ④ 標準化死亡比 (SMR)

本市の標準化死亡比 (SMR) をみると、国、県に比べ、男性では食道がん、膵がん、女性では胃がん、結腸がん、膵がん、自殺が高くなっています。

##### 標準化死亡比 (SMR)

標準化死亡比 (SMR) は、年齢構成が異なる集団間の死亡傾向を比較するものとして用いられ、標準化死亡比が基準値 (100) より高い場合は、その地域 (西宮市) の死亡状況が、基準となる集団 (全国) より悪いということを示しています。

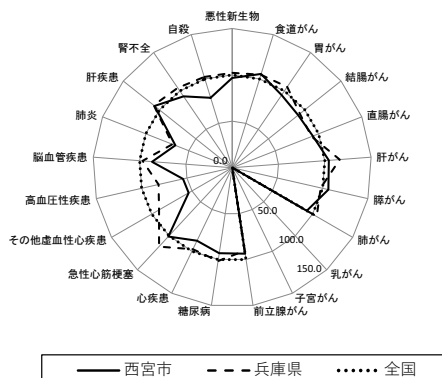
##### ■標準化死亡比(SMR)の状況

平成 28(2016) - 令和 2(2020)年

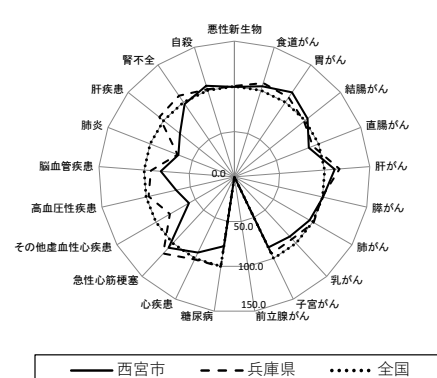
	男性		女性	
	西宮市	兵庫県	西宮市	兵庫県
悪性新生物	96.8	102.3	99.3	100.5
食道がん	105.7	104.8	104.8	108.6
胃がん	94.7	105.4	113.1	106.3
結腸がん	90.8	93.3	103.4	98.4
直腸がん	93.4	91.8	88.3	93.2
肝がん	104.4	116.2	111.2	116.6
膵がん	106.3	97.8	100.5	99.4
肺がん	92.8	105.2	95.9	101.1
乳がん	-	-	89.9	93.8
子宮がん	-	-	86.6	94.2
前立腺がん	93.7	90.6	-	-
糖尿病	93.1	101.7	77.4	100.5
心疾患	87.2	97.4	92.9	101.3
急性心筋梗塞	101.2	115.9	106.9	115.6
その他虚血性心疾患	54.1	91.1	58.1	82.3
高血圧性疾患	54.3	81.3	66.0	97.2
脳血管疾患	86.7	96.8	81.4	92.5
肺炎	65.7	69.2	66.5	67.4
肝疾患	106.9	108.0	76.9	106.1
腎不全	93.0	104.0	97.5	108.6
自殺	78.8	102.2	105.4	101.3

資料:兵庫県「平成 28 年～令和 2 年兵庫県における死亡統計指標」

##### ■標準化死亡比の状況<男性>



##### ■標準化死亡比の状況<女性>



資料:兵庫県「平成 28 年～令和 2 年兵庫県における死亡統計指標」



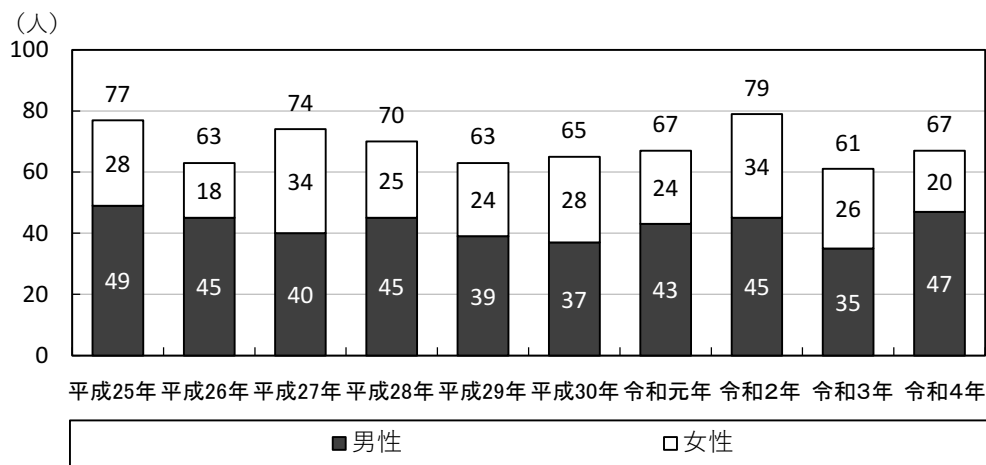
## (4) 自殺の状況

### ① 自殺者数の推移

本市の自殺者数は、平成29（2017）年以降、60人台で推移していました。なお、令和2（2020）年に79人に増加しましたが、令和4（2022）年には67人となっています。

本市の自殺死亡率は、男女ともに国よりも概ね低くなっていますが、男性では、60代で国、県を大きく下回り、70代で国をやや上回っています。女性では、20歳未満、30代、40代、60代で国、県を上回っています。

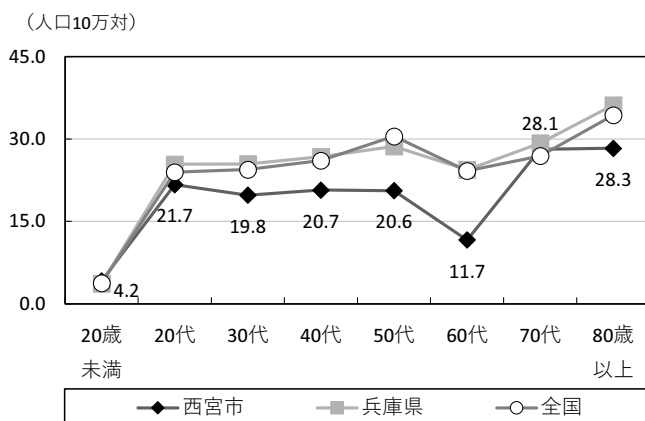
#### ■男女別自殺者数の推移



資料：地域における自殺の基礎資料(厚生労働省)

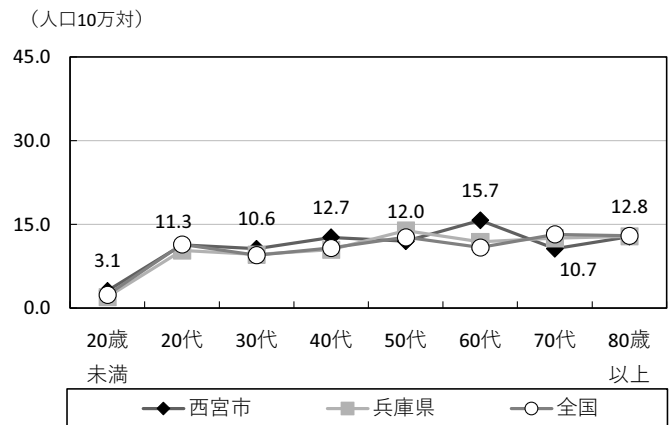
#### ■男性年齢別自殺死亡率

(平成28(2016)～令和2(2020)年)



#### ■女性年齢別自殺死亡率

(平成28(2016)～令和2(2020)年)

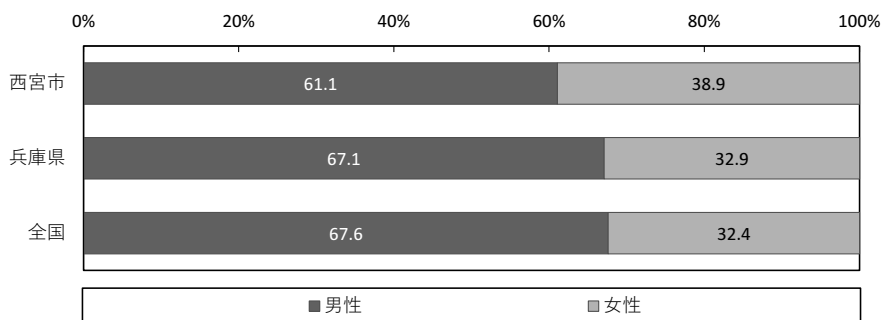


資料：地域自殺実態プロファイル 2022(いのち支える自殺対策推進センター)

男女別の自殺者割合は、女性が国、県と比べて高くなっています。

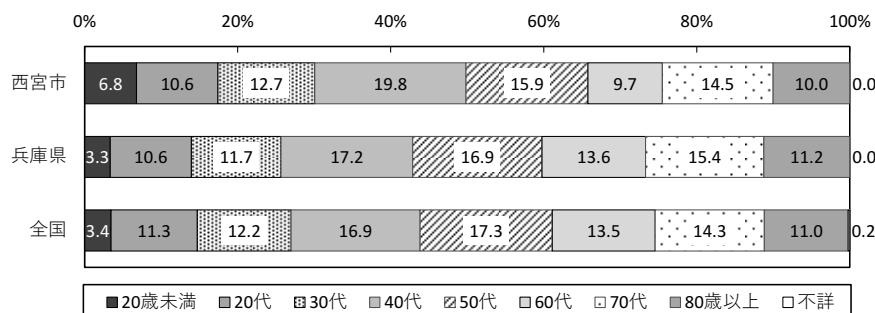
年齢別の自殺者割合は、40代が19.8%と最も高く、次いで50代が15.9%となっています。また30代以下の若い世代の自殺者割合が国、県と比べて高くなっています。

### ■男女別自殺者割合(平成30(2018)～令和4(2022)年)



資料：地域における自殺の基礎資料(厚生労働省)

### ■年齢別自殺者割合(平成30(2018)～令和4(2022)年)



資料：地域における自殺の基礎資料(厚生労働省)

### ■西宮市における自殺の主な特徴(平成29(2017)～令和3(2021)年合計)

自殺者の特性上位5区分	自殺者数(5年計)	割合	自殺死亡率(10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位：男性 60歳以上無職同居	34	10.1%	24.3	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位：男性 40～59歳有職同居	33	9.9%	12.1	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3位：女性 60歳以上無職同居	32	9.6%	13.4	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位：女性 40～59歳無職同居	28	8.4%	15.4	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
5位：男性 20～39歳無職同居	21	6.3%	49.3	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺/ ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺

資料：地域自殺実態プロファイル 2022(いのち支える自殺対策推進センター)

## (5) 国民健康保険加入者による特定健康診査の状況

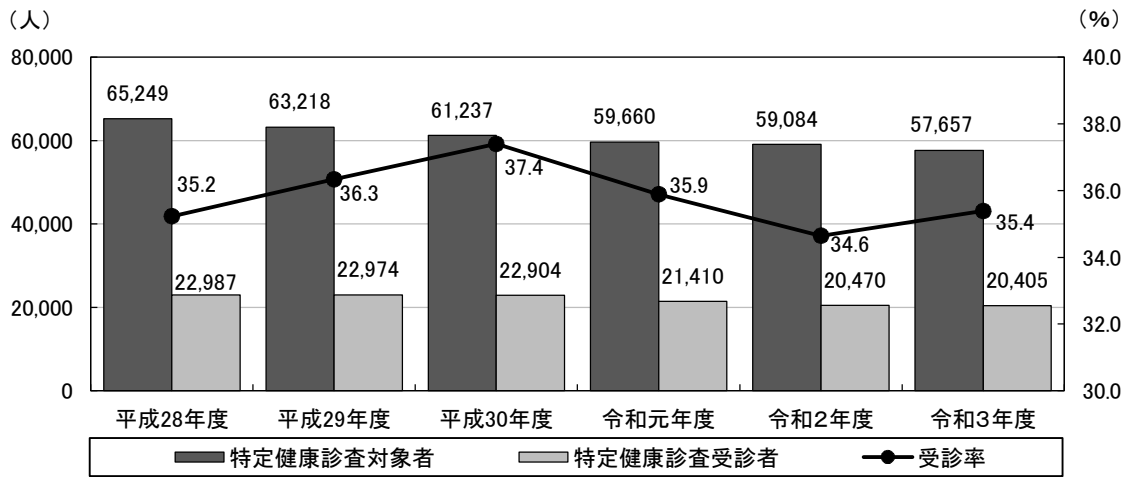
### ① 特定健康診査の受診状況

本市の国民健康保険加入者は減少傾向にあり、それに伴い、特定健康診査の対象者数及び受診者数も概ね減少傾向で推移しています。

受診率は平成30（2018）年度まで増加傾向で推移し、令和元（2019）年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少傾向で推移していましたが、令和3（2021）年度では、やや増加し、35.4%となっています。

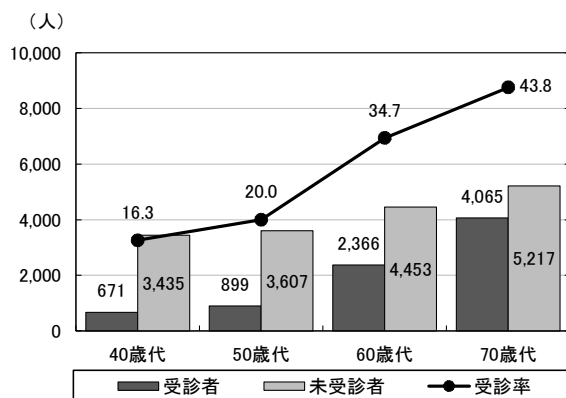
令和3（2021）年度の受診状況を性別で見ると、男性の受診率は女性よりも低い傾向にあり、特に男性の40歳代では受診率が20%未満となっています。

### ■ 特定健康診査の対象者・受診者と受診率の推移



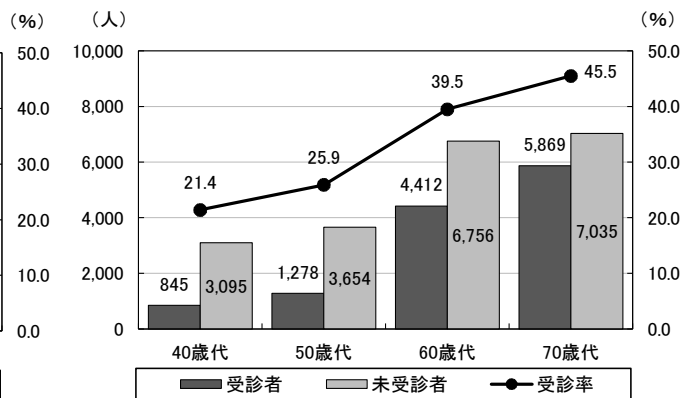
資料：国民健康保険課

### ■ 特定健康診査の年代別受診者 (令和3(2021)年度・男性)



資料：国民健康保険課

### ■ 特定健康診査の年代別受診者 (令和3(2021)年度・女性)

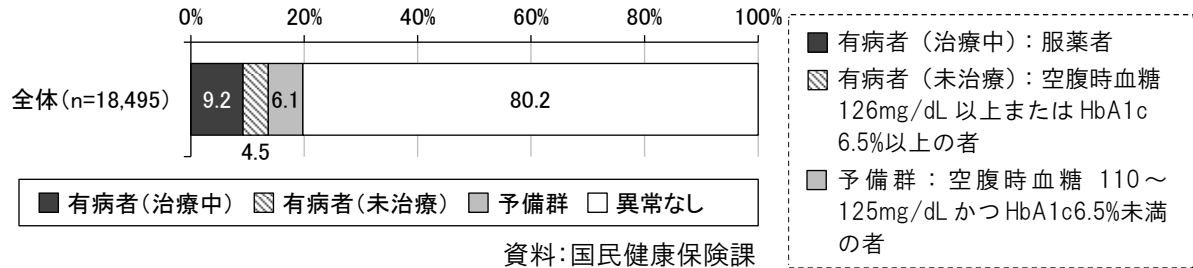


資料：国民健康保険課

## ② 糖尿病

令和3（2021）年度における糖尿病の有病者は全体の13.7%となっており、未治療者は全体の4.5%となっています。

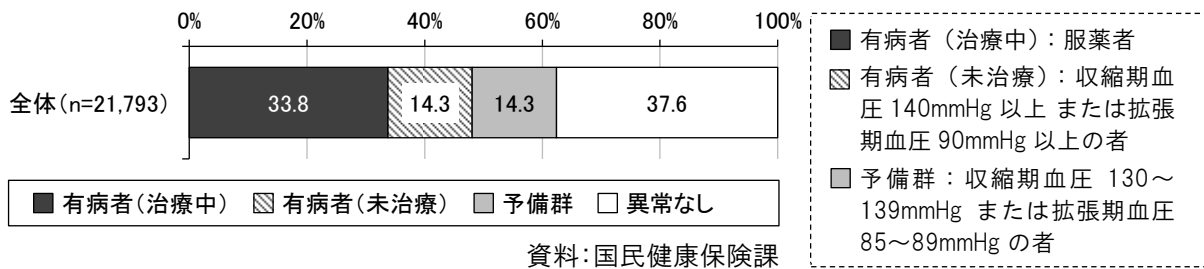
■糖尿病の有病率(令和3(2021)年度)



## ③ 高血圧症

令和3（2021）年度における高血圧症の有病者は全体の48.1%となっており、未治療者は全体の14.3%となっています。

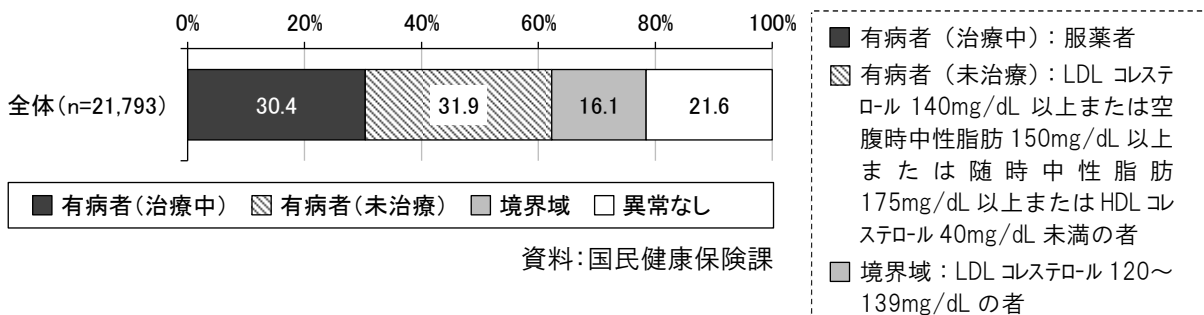
■高血圧症の有病率(令和3(2021)年度)



## ④ 脂質異常症

令和3（2021）年度における脂質異常症の有病者は全体の62.3%となっており、未治療者は全体の31.9%となっています。

■脂質異常症の有病率(令和3(2021)年度)

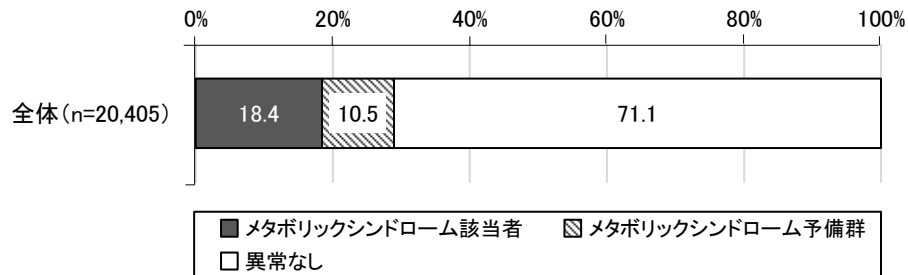


⑤ メタボリックシンドローム

令和3（2021）年度におけるメタボリックシンドローム該当者は全体の18.4%となっており、メタボリックシンドローム予備群は全体の10.5%となっています。

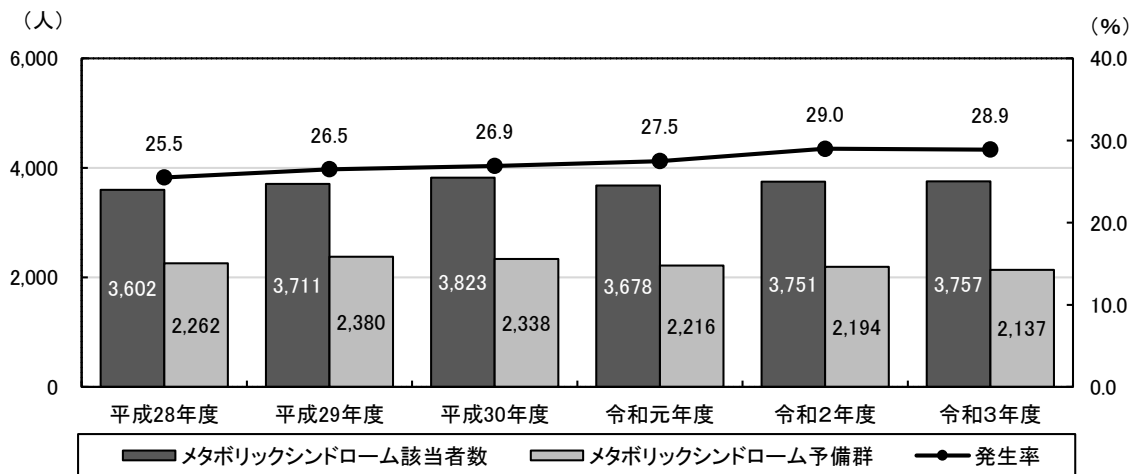
また、令和3（2021）年度のメタボリックシンドローム該当者・予備群の発生率は、28.9%となっており、増加傾向で推移しています。

■メタボリックシンドロームの該当者・予備群の発生率(令和3(2021)年度)



資料：国民健康保険課

■メタボリックシンドロームの該当者・予備群の対象者と発生率の推移



資料：国民健康保険課

【メタボリックシンドローム判定基準】

性別	必須項目	下記のリスクが2つ以上ある方はメタボリックシンドローム該当。1つの方は予備群。		
	腹囲基準	血圧	血糖	脂質
男性	85cm以上	収縮期130mmHg以上または 拡張期85mmHg以上	空腹時血糖110mg/dl以上または HbA1c6.0%以上	中性脂肪150mg/dl以上または HDLコレステロール40mg/dl未満
女性	90cm以上			

## 2 健康増進・食育推進に係る市の現状と課題

### (1) 栄養・食生活

#### 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①適正体重を維持して いる人の割合 (肥満<BMI25.0 以上> やせ<BMI18.5 未満>)	肥満(20～39 歳): 男性	22.1%	17.5%	26.5%	15.0%以下	×	※1
	肥満(40～59 歳): 女性	10.5%	12.0%	14.7%	5.0%以下	△	※1
	やせ(20 歳代): 女性	13.3%	19.5%	26.5%	5.0%以下	×	※1
	4・5歳児肥満	1.5%	1.6%	2.9%	1.1%以下	△	※3
	小学生肥満 (日々式)*	4.3%	5.6%	—	—	—	—
	小学生肥満 (学校保健統計)*	—	5.4%	6.4%	1.0%以下	△	※4
②朝食を食べる人の増加	男性	83.3% (平成 24 年度)	82.2%	82.8%	85.0%以上	△	※2
	女性	91.2% (平成 24 年度)	88.1%	86.0%	97.0%以上	△	※2
③主食・主菜・副菜を組 み合わせた食事を1 日2回以上ほぼ毎日 食っている人の増加	全体 (15 歳以上)	—	51.4%	48.4%	70.0%以上	△	※2
	若い世代 (20～39 歳)	—	38.3%	35.1%	55.0%以上	△	※2
④薄味の物を食べる人の増加		50.6%	52.7%	49.5%	65.0%以上	△	※2
⑤栄養成分表示を参考に する人の増加		56.1%	53.7%	53.8%	75.0%以上	△	※2

#### 【目標値の達成状況】

◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず  
×:中間見直し時よりも悪化

#### 【現状値の出典】

※1:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

※2:令和4年「西宮市食育・食の安全安心推進計画」改定のためのアンケート調査

※3:令和4年 幼児期の食生活アンケート調査 ※4:令和4年度健診結果

\*小学生の肥満の算出方法は次のとおりです。

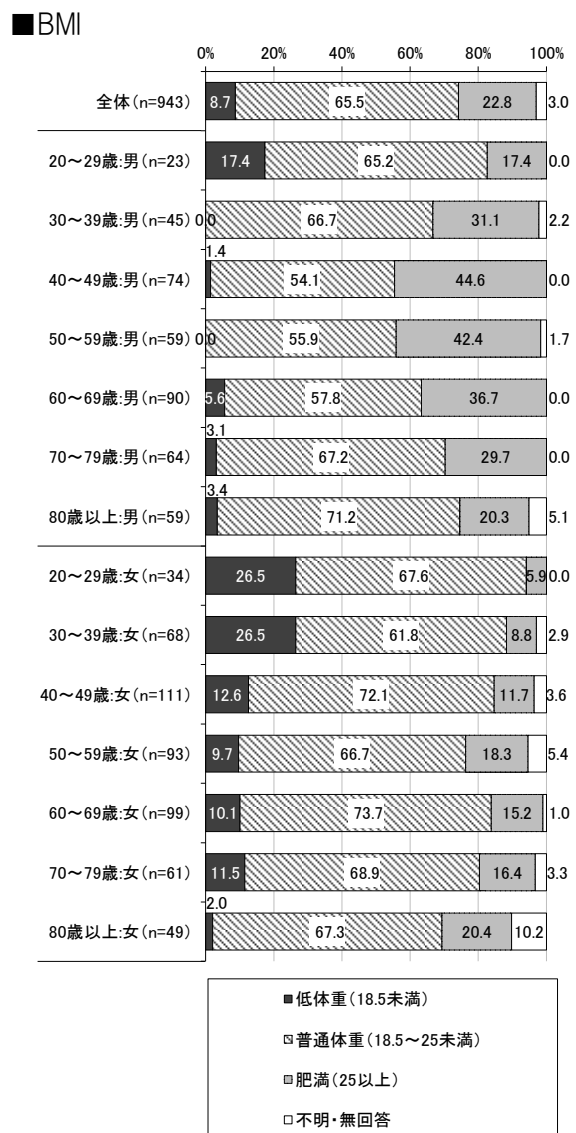
- ・策定時(平成 23 年度)… 日々式
- ・中間見直し時(平成 28 年度)… 日々式、学校保健統計
- ・現状値(令和4年度)… 学校保健統計

【これまでの取組】

- ・マザークラス、乳幼児健康診査、乳幼児健康相談等を通じ、乳幼児の健やかな成長に必要な栄養に関する講義・情報提供・相談を実施しました。
- ・生活習慣の改善に向けた講演会やホームページ等による情報提供、出前健康講座、個別相談・指導を実施しました。
- ・食生活改善推進員（西宮いずみ会）、にしのみや健康づくり推進員、食育学生ボランティアの養成、にしのみや食育・健康づくり応援団への登録促進等、地域の食育を担う人材育成に取り組みました。
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組み、後期高齢者に対する生活習慣病の重症化予防、低栄養リスク者等に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）や集団指導（ポピュレーションアプローチ）を実施しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、対面による研修や教室事業が中止となりましたが、妊産婦オンライン相談のように、社会情勢に可能な限り対応し、取組を展開しました。

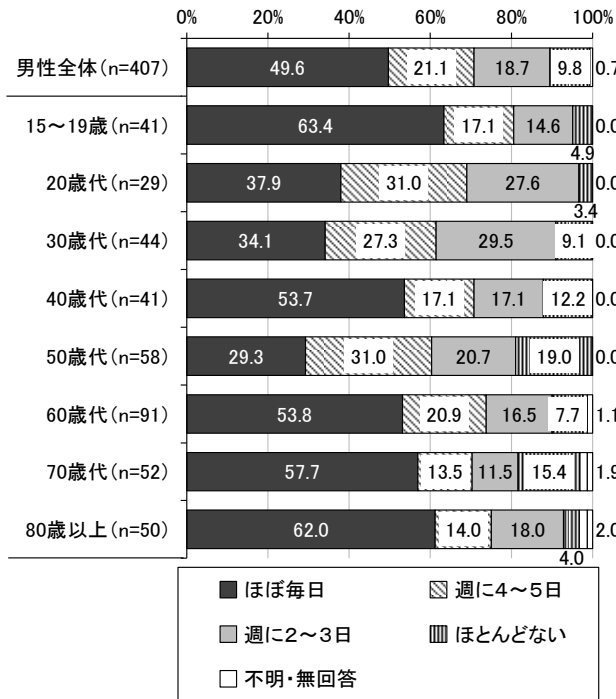
【現状】

- ▶肥満は、男性（20歳代、30歳代）が26.5%、女性（40歳代、50歳代）が14.7%となっており、中間見直し時から増加しています。
- ▶20歳代の女性においてやせ（BMI18.5未満）が増加しています。
- ▶バランスの良い食事（1日に2回以上主食・主菜・副菜を組み合わせる）がほぼ毎日できている人が約5割となっていますが、若い世代（20～30歳代）は約3割と、市全体と比較して低くなっています。
- ▶野菜をたくさん食べるようにしている人は約70%と多くなっているものの、年代別でみると、20～40歳代において実践していない人が多くなっています。
- ▶食生活を改善したいという人が一定みられ、中でも20歳代では4割を超えています。

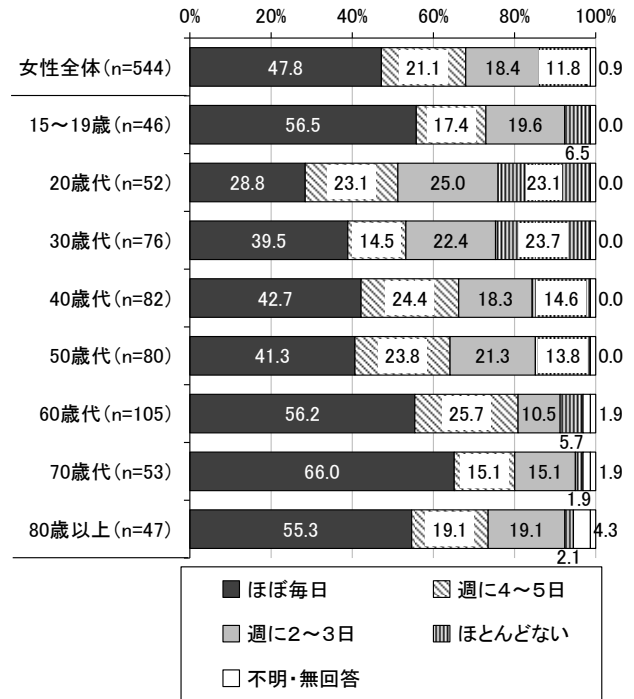


■ 栄養バランスに配慮した食生活(1日に2回以上主食・主菜・副菜を組み合わせる)がどれくらいできているか

<男性>



<女性>



【課題】

- 将来の健康のためには「食」が大切であることを認識し、健康的な食生活を実践できるよう、若い世代を中心とした食育のさらなる推進が必要。
- 20歳代、30歳代をはじめとした若い世代に対し、バランスの良い食事の実践を促す取組が必要。
- 食生活を改善したいという人が一定みられることから、これらの人々に対し、食生活の改善を実践できるような取組が必要。生涯を通じた健全な食生活の実践のため、「バランスのよい食事について」や、「各世代に応じた望ましい食習慣について」の意識啓発・行動変容を促していくことが重要。



## (2) 身体活動・運動

## 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成23年度)	中間見直し時 (平成28年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①1日の歩行時間が 40分(4,000歩) 未満の人の減少	20歳以上	50.8%	45.8%	47.7%	40.0%以下	△	※1
②1日の歩行時間の 増加	20歳以上:男性	54.7分	55.6分	62.1分	70分以上	○	※1
	20歳以上:女性	46.6分	48.2分	58.2分	60分以上	○	※1
	70歳以上:男性	44.2分	49.4分	56.0分	50分以上	◎	※1
	70歳以上:女性	32.6分	41.8分	46.8分	37分以上	◎	※1
③運動を定期的に行う 人の増加(1日30分 以上かつ週2回以上 かつ1年間継続)	20歳以上:男性	48.3%	45.8%	46.4%	50.0%以上	△	※1
	20歳以上:女性	39.4%	40.4%	39.2%	40.0%以上	△	※1
④地域活動等に 参加する人の増加	60歳以上:男性	48.3%	48.2%	31.9%	60.0%以上	×	※1
	60歳以上:女性	55.3%	53.8%	44.0%	60.0%以上	×	※1
⑤ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の 認知度の増加		—	32.8%	31.5%	80.0%以上	△	※1

## 【目標値の達成状況】

◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず  
×:中間見直し時よりも悪化

## 【現状値の出典】

※1:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

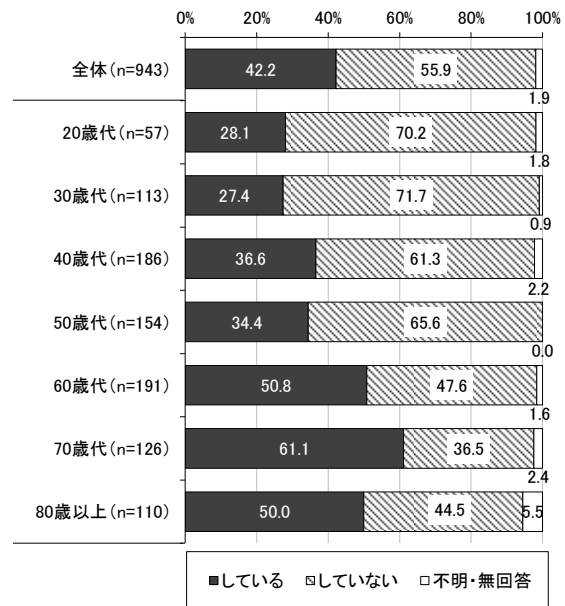
## 【これまでの取組】

- ・小学校区を基本として地域スポーツクラブを40クラブ設置し、各クラブにおいて多世代が参加できる様々な種目のスポーツを実施しました。
- ・地区運動会や各種スポーツイベントを開催し、多世代や地域の交流を深める場を提供しました。
- ・高齢になっても住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、「西宮いきいき体操」の普及啓発や、体操に取り組むグループの育成・支援に取り組みました。
- ・70歳以上の方を対象に、活動量計やスマホアプリを使用して計測した歩数や健診受診、西宮いきいき体操、各種イベントへの参加等に応じてポイントを付与し、獲得したポイントを賞品に交換できる健康ポイント事業を実施しました。
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組み、活動量の向上や転倒予防について、後期高齢者に対する個別支援（ハイリスクアプローチ）や集団指導（ポピュレーションアプローチ）を実施しました。
- ・市内を5地区に分け、全市13コースのウォーキングマップを作成し、市民に配布しました。

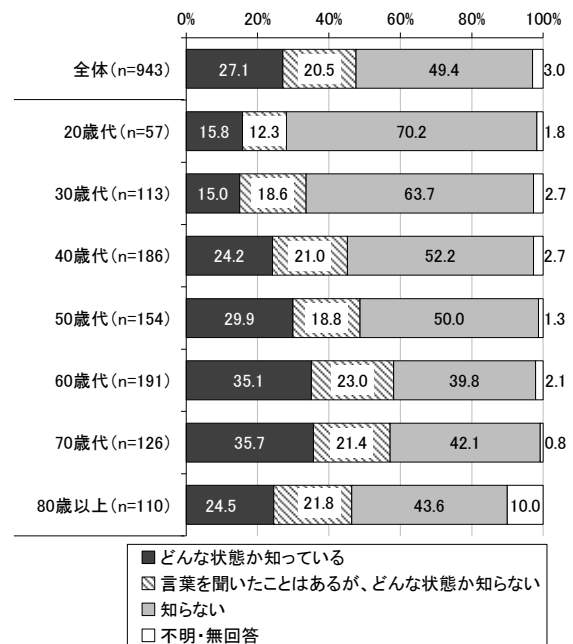
**【現状】**

- ▶ 1日の平均歩行時間は、男性が62.1分、女性が58.2分と、平成28（2016）年度よりも増加しています。
- ▶ 1日30分以上の運動を週2回以上、1年以上行っている人が42.2%と、半数を下回っているものの、県よりも高くなっています。また、年代別に見ると20～50歳代で低くなっています。
- ▶ 60歳以上の人のうち地域活動等に参加する人は男性で31.9%、女性で44.0%となっており、平成28（2016）年度よりも減少しています。
- ▶ フレイルの認知度は27.1%となっており、約半分の人が知らないと回答しています。60歳未満では、フレイルを知らないという人が50%以上を占めており、20歳代では約70%、30歳代では60%強と高くなっています。

**■ 1日30分以上の運動を週2回以上、1年以上行っているか**



**■ フレイルの認知について**



**【課題】**

- 歩行習慣や運動習慣を身につけるため、運動に関する教室やイベント等の内容や情報提供の充実に努めるとともに、家庭や職場等での身体活動・運動の重要性の周知・啓発が必要。
- ウォーキングマップや健康ポイント事業などを通じて歩行時間を延ばしていくなど、暮らしの中で運動を習慣化できるような取組が重要。

**(3) こころの健康****【目標値達成状況】**

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①自殺者の減少		90 人	70 人	59 人 (令和3年)	50 人以下	○	※2
②ストレスを感じている 人の減少	全体	57.5%	59.9%	71.3%	50.0%以下	×	※1
	男性	51.5%	54.0%	65.5%	43.0%以下	×	※1
	女性	62.9%	64.3%	75.9%	54.0%以下	×	※1
③不眠を感じることがよくある人の減少		9.5%	12.1%	15.0%	9.0%以下	△	※1

**【目標値の達成状況】**

- ◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず  
×:中間見直し時よりも悪化

**【現状値の出典】**

- ※1:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査  
※2:人口動態統計

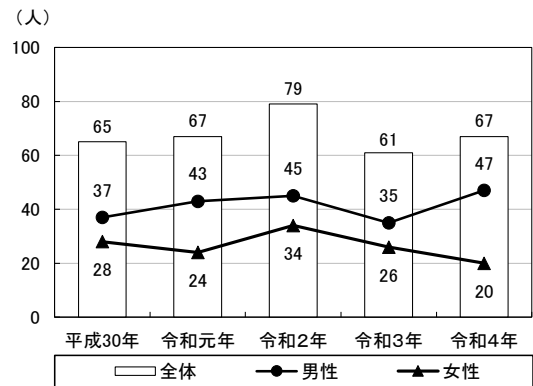
**【これまでの取組】**

- ・こころの健康講座を開催し、精神的な健康障害の予防に関する情報を発信し、こころの健康づくりを推進しました。
- ・各種健康相談事業を展開し、悩みを抱え込む人が出ないように相談及び情報提供に取り組みました。
- ・市の自殺対策に関する事業を総合的かつ効果的に推進するため、庁内関係課を構成員とした自殺対策庁内連絡会議と、庁外関係機関を中心とした自殺対策ネットワーク会議を開催しました。
- ・自殺対策に関する知識や相談窓口を広く知っていただけるよう、普及啓発のグッズ等の配布に取り組みました。
- ・メンタルチェック「こころの体温計」を実施し、幅広い世代への自殺対策を実施しました。
- ・市民や市職員等の支援者を対象としたゲートキーパー養成研修、市民対象のフォロー講座を実施し、ゲートキーパーの養成に取り組むとともに、ゲートキーパー手帳を改訂しました。
- ・こころのケア講座を開催し、ストレス対処やよい睡眠に関する啓発を行いました。

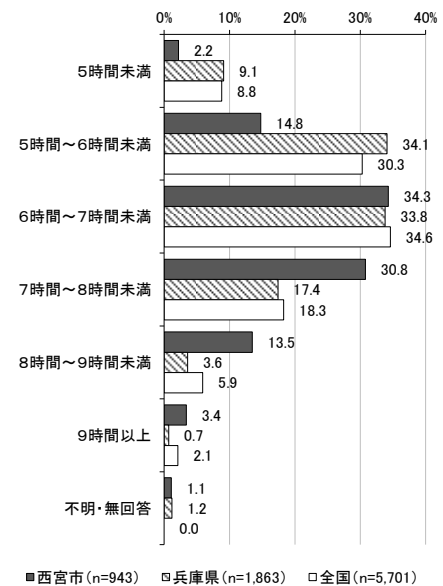
**【現状】**

- ▶ ストレスを感じている人が全体の7割を超えており、男女ともに平成28（2016）年度から大きく増加しています。
- ▶ ストレスの度合いについて、高ストレスが6割を超えています。
- ▶ 年齢別の不安・ストレスの要因として、  
 20～30歳代：社会参加（勤務・学業）の問題  
 40～60歳代：家庭、家族の問題  
 70歳以上：病気などの健康問題  
 の割合が高くなっています。
- ▶ 悩みやストレスを感じた時に相談相手がない人の割合は、女性より男性が高くなっています。また、高齢世代の男性と若い世代の女性において、相談相手がない人の割合が高くなっています。
- ▶ 不眠を感じる人がよくある人の割合が15.0%とやや増加しています。
- ▶ 1日の睡眠時間は、7時間以上の割合が国や県よりも高く、6時間未満の割合が国や県よりも低くなっています。
- ▶ 自殺者数は増減を繰り返しながら推移しており、女性よりも男性の自殺者が多いという傾向が続いています。
- ▶ これまで自殺をしたいと考えたことがある人は13.0%、そのうち68.9%が誰にも相談していないと回答しており、平成28（2016）年度とほとんど同じ傾向となっています。
- ▶ 自殺を思いとどまった人のうち、我慢をしたから思いとどまったという人が35.2%となっています。

**■ 自殺者数の推移**



**■ 1日の睡眠時間**



**【課題】**

- 市民、関係機関・関係団体、職場、行政が連携し、ライフステージにあわせたところの健康づくりを推進していくとともに、誰もが気軽に相談できるよう、相談窓口のさらなる周知が必要。

## (4) たばこ

## 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①喫煙率の減少	男性	22.3%	15.8%	14.0%	10.0%以下	△	※1
	女性	8.3%	4.5%	3.7%	5.0%以下	◎	※1
②禁煙希望者の増加	男性	28.9%	28.2%	24.1%	90.0%以上	△	※1
	女性	32.8%	28.6%	21.1%	90.0%以上	×	※1
③喫煙が及ぼす 健康影響について 十分な知識を持つ人 の増加	肺がん	85.8%	89.1%	88.3%	100.0%	△	※1
	ぜん息	64.0%	65.0%	65.2%	100.0%	△	※1
	気管支炎	66.0%	67.9%	68.4%	100.0%	△	※1
	COPD (慢性閉塞性肺疾患)	58.3%	53.8%	60.7%	100.0%	○	※1
	心臓病	53.9%	49.6%	49.0%	100.0%	△	※1
	脳卒中	57.6%	53.7%	52.7%	100.0%	△	※1
	胃潰瘍	38.0%	31.7%	33.0%	100.0%	△	※1
	妊婦への影響	80.2%	76.9%	75.0%	100.0%	△	※1
	歯周病	46.3%	43.2%	46.0%	100.0%	△	※1
④受動喫煙が及ぼす 健康影響について 十分な知識を持つ人 の増加	肺がん	79.4%	75.8%	77.3%	100.0%	△	※1
	ぜん息	62.8%	59.2%	65.4%	100.0%	○	※1
	心臓病	45.2%	39.3%	42.8%	100.0%	△	※1
	妊婦への影響	75.8%	70.4%	71.0%	100.0%	△	※1

## 【目標値の達成状況】

◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず

×:中間見直し時よりも悪化

## 【現状値の出典】

※1:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
⑤ 飲食店、公共施設、 家庭、職場で 受動喫煙防止対策 を実施している 箇所の増加 (敷地内禁煙スペース 建物内禁煙)	公共施設	96.5%	96.6%	100.0%	100.0%	◎	※2
	教育機関(市立)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	◎	※2
	教育機関(私立)	95.2%	96.0%	95.7%	100.0%	△	※2
	病院・診療所	96.8%	96.9%	100.0%	100.0%	◎	※2
	歯科診療所	96.8%	95.2%	100.0%	100.0%	◎	※2
	薬局	96.4%	96.7%	100.0%	100.0%	◎	※2
	事務所	42.9%	44.0%	83.5%	100.0%	○	※2
	運動施設	86.4%	89.5%	100.0%	100.0%	◎	※2
	文化施設	94.4%	94.7%	100.0%	100.0%	◎	※2
飲食店	50.0%	62.5%	66.2%	100.0%	△	※2	
⑥ 歩きながらたばこを吸わない人の増加		74.3%	57.3%	62.3%	100.0%	○	※1
⑦ 妊婦・乳児・子供の近くでは たばこを吸わない人の増加		80.1%	79.6%	75.3%	100.0%	△	※1
⑧ 妊娠中の喫煙者の減少		—	1.4%	1.0%	0.0%	△	※3

【目標値の達成状況】

◎: 目標達成 ○: 目標値に達成していないが改善傾向 △: 中間見直し時とほぼ変わらず  
×: 中間見直し時よりも悪化

【現状値の出典】

※1: 令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

※2: 令和4年 受動喫煙防止対策実施状況アンケート調査

※3: 令和4年度 4か月児健康診査

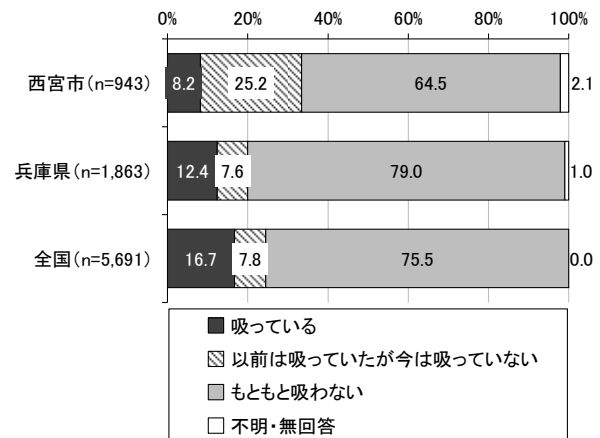
【これまでの取組】

- 母子手帳交付時の面接や育児セミナー、特定保健指導等で喫煙者に禁煙相談を実施しました。
- 市立小・中・高等学校において未成年者への喫煙防止を目的にたばこ・アルコールを含む薬物に関する教室や出前健康講座を実施したほか、大手前大学メディア・芸術学部マンガ専攻ゼミ生と協働で、小学校高学年向けのたばこに関するリーフレットを作成しました。
- 受動喫煙防止対策の一環として、市民から市内の施設や公共空間等で受動喫煙被害の苦情等があった際に、施設指導を実施しました。
- 空気もおいしい店（完全禁煙の飲食店）の普及等、（たばこの煙のない）スモークフリーにしのみやに取り組みました。
- 気管支喘息や COPD に対する理解を深め、予防と回復を目的とした COPD 講演会を開催し、医師による講話やオトスパイロメーターによる肺年齢の測定、禁煙相談を実施しました。

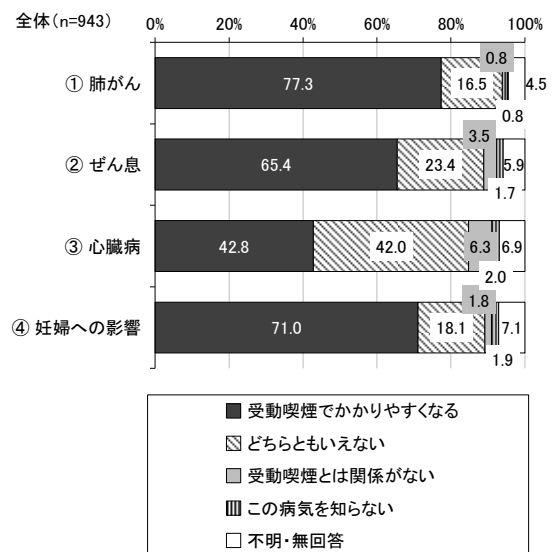
【現状】

- ▶ 喫煙率は男女ともに緩やかに減少を続けており、国や県よりもたばこを吸っている人の割合が低くなっています。
- ▶ 喫煙の影響について、肺がんや妊婦への影響（早産・低出生体重児など）をはじめとした様々な項目で理解が広がっています。一方で、胃潰瘍、歯周病、心臓病では「どちらともいえない」の割合が他の項目よりも高くなっています。
- ▶ 受動喫煙の影響について、肺がん、ぜん息、妊婦に悪影響があるということに対する理解が高くなっています。一方で、心臓病では、「どちらともいえない」の割合が他の項目よりも高くなっています。
- ▶ 生活の中で受動喫煙の機会があるという割合が41.1%となっており、前回の調査と比較して改善していることから、公共施設等において受動喫煙防止対策が進んでいることが伺えます。

■ 喫煙状況



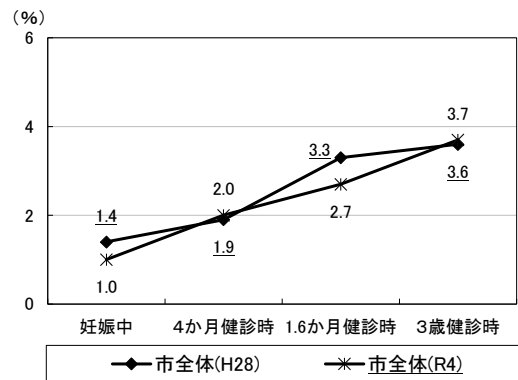
■ 受動喫煙の影響について



## 【現状】

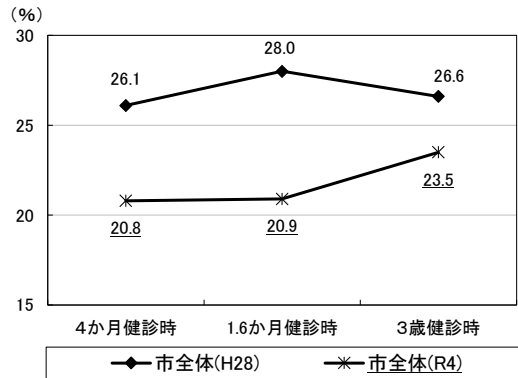
- ▶ 妊娠・子育て中の母親の喫煙率は、平成28（2016）年から令和4（2022）年にかけて、概ね減少しています。
- ▶ 令和4（2022）年の乳幼児健診時の調査では、妊娠中の母親の喫煙率は1.0%と低くなっているものの、出産後の子供の成長に伴い喫煙率が増加しています。
- ▶ 父親の喫煙率は、平成28（2016）年から令和4（2022）年にかけて、減少しています。また令和4（2022）年時点では、母親と同じく、子供の成長に伴い父親の喫煙率も概ね増加する傾向がみられます。

## ■ 妊娠・子育て中の母親の喫煙率



※ すこやか親子アンケートより

## ■ 子育て中の父親の喫煙率



※ すこやか親子アンケートより

## 【課題】

- 喫煙・受動喫煙による影響について、普及啓発をより一層推進するとともに、喫煙者の行動変容を後押しする対策の強化と取組の充実が必要。



## (5) アルコール

## 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成23年度)	中間見直し時 (平成28年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
① 飲酒する人のうち 適量飲酒(1日純ア ルコール 20g未満) をしている人の増加	男性	32.0%	35.3%	31.6%	36.0%以上	△	※1
	女性	55.2%	52.0%	52.5%	65.0%以上	△	※1
② 飲酒が及ぼす 健康影響について 十分な知識を持つ人 の増加	妊婦の飲酒	80.8%	80.8%	77.5%	100.0%	△	※1
	授乳中の飲酒	82.1%	80.3%	77.3%	100.0%	△	※1
	内服中の飲酒	51.2%	48.6%	35.6%	100.0%	×	※1
	入浴前の飲酒	54.3%	53.2%	42.6%	100.0%	×	※1
③ 多量飲酒者の減少	男性	5.1%	4.7%	4.6%	3.2%以下	△	※1
	女性	0.7%	0.5%	1.5%	0.2%以下	△	※1
④ 週5日以上アルコー ルを飲む人の減少	男性	41.1%	38.7%	34.4%	40.0%以下	◎	※1
	女性	13.7%	12.6%	17.9%	5.0%以下	×	※1
⑤ 未成年者の飲酒が身体・精神発育に与える 影響について十分な知識を持つ人の増加		78.3%	72.9%	78.0%	100.0%	○	※1
⑥ 妊娠中の飲酒者の減少		—	1.1%	0.4%	0.0%	△	※2

## 【目標値の達成状況】

◎: 目標達成 ○: 目標値に達成していないが改善傾向 △: 中間見直し時とほぼ変わらず  
×: 中間見直し時よりも悪化

## 【現状値の出典】

※1: 令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

※2: 令和4年度 4か月児健康診査

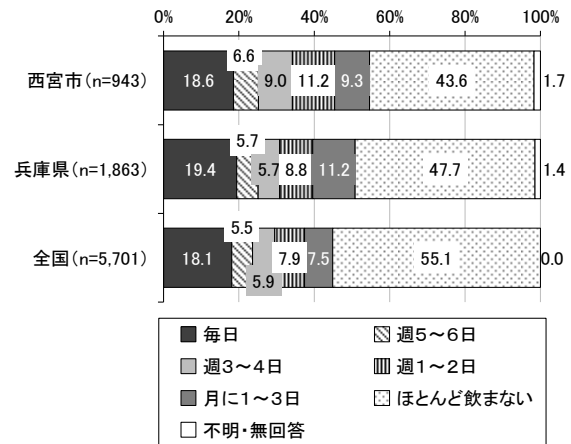
## 【これまでの取組】

- ・市立小・中・高等学校においてたばこ・アルコールを含む薬物に関する保健指導を実施しました。また、大学や育児セミナーにおいて啓発や保健指導を実施したほか、市民向けの学習会を実施しました。
- ・未成年者の飲酒禁止を図り、市立小学校の6年生に対し、未成年者の飲酒の害・保護者へのメッセージを掲載したリーフレットを作成し、配布しました。
- ・アルコールの相談窓口の充実を図り、アルコール関連問題に関する支援者向けの研修会を開催しました。
- ・子宮頸がん検診無料クーポン券／乳がん検診無料クーポン券送付時に、ライフステージ別健康づくりリーフレットを同封し、適量飲酒について啓発を行いました。

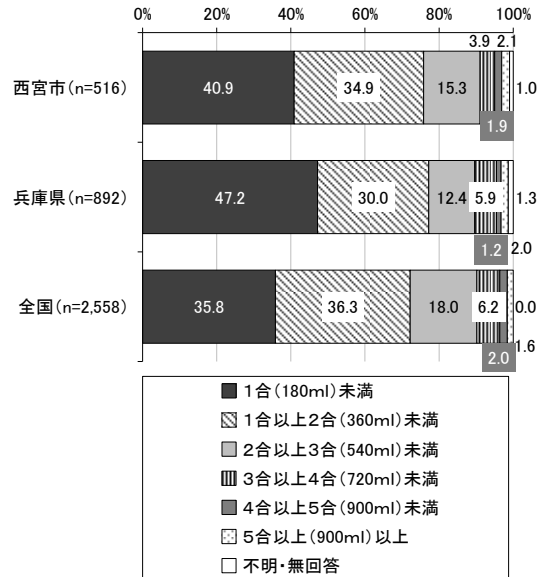
**【現状】**

- ▶ 飲酒習慣のある人（月1回以上）が50%を超えており、国や県よりも割合が高くなっています。
- ▶ 週5日以上飲酒をする人について、男性はやや減少しているものの、女性で増加しており、国よりも高く、県と同じ水準となっています。
- ▶ 適量飲酒をしている人について、男性が31.6%、女性が52.5%で、平成28（2016）年度から横ばいで推移しています。
- ▶ 日本酒に換算して、飲酒量が1合未満（180ml 未満）の人が全体の40.9%となっており、割合が国よりも高いものの、県より低くなっています。
- ▶ 未成年者の飲酒が身体・精神発育に与える影響について十分な知識を持つ人が78.0%と、平成28（2016）年度から増加しています。
- ▶ 服薬している人や入浴前の飲酒について、少しなら良いという人が40%を超えており、まったくすべきではないという人が50%未満となっています。
- ▶ 飲酒がアルコール依存症、脂肪肝・肝硬変に関連するということの理解が高くなっています。一方で、飲酒が乳がんや口腔がん、うつ病に関連するということを理解している人は10%未満となっています。

**■ 飲酒状況**



**■ 飲酒量**



**【課題】**

- アルコールが心身に与える影響や節度ある適度な飲酒に関する知識のさらなる普及が必要。
- お酒と上手に付き合い、節度ある適度な飲酒をできるよう、家庭や職場等での環境づくりを推進することが必要。

## (6) 歯・口腔の健康

## 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①3歳児でう歯のない児の増加		85.8%	88.2%	94.4%	93.0%以上	◎	※2
②3歳児でフッ化物塗布をしたことがある児の増加		48.8%	59.2%	62.9%	70.0%以上	△	※2
③12歳児の平均う歯数の減少		0.9本	0.3本	0.46本	0.5本以下	◎	※3
④12歳児でう歯のない児の増加		61.1%	69.0%	75.6%	70.0%以上	◎	※3
⑤年に1回以上歯の定期健(検)診に行く人の増加		44.1%	49.7%	60.6%	60.0%以上	◎	※1
⑥定期的に歯石除去や歯面清掃に行く人の増加	年2回	23.8%	35.5%	45.3%	35.0%以上	◎	※1
	年1回以上	41.5%	49.0%	57.3%	50.0%以上	◎	※1
⑦専門家による歯磨き指導を受ける人の増加		27.5%	35.5%	36.5%	50.0%以上	△	※1
⑧清掃補助用具を使用する人の増加		38.7%	45.7%	54.9%	50.0%以上	◎	※1
⑨かかりつけ歯科医のいる人の増加		59.1%	59.7%	64.9%	76.0%以上	○	※1
⑩歯や口腔に悩みを持っている人の減少		72.5%	68.4%	64.1%	56.0以下	△	※1
⑪喫煙と口腔との関係について正しい知識を持つ人の増加		46.3%	43.2%	46.0%	100.0%	△	※1
⑫8020 目標達成者の増加 ・40歳以上で27歯以上 ・60歳以上で24歯以上 ・80歳で20本以上	40歳	88.9%	91.5%	88.8%	92.0%以上	△	※4
	60歳	86.4%	93.4%	93.5%	90.0%以上	◎	※4
	80歳	—	64.7%	71.6%	50.0%以上	◎	※5
⑬進行した歯周疾患を有する人の減少	40歳	44.4%	43.2%	55.1%	25.0%以下	×	※4
	60歳	59.7%	54.5%	66.8%	45.0%以下	×	※4
⑭噛む回数が1口10回未満の人の減少		31.0%	30.5%	30.5%	15.5%以下	△	※1

## 【目標値の達成状況】

◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず

×:中間見直し時よりも悪化

### 【現状値の出典】

- ※1:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査
- ※2:令和4年度 3歳児健康診査
- ※3:令和4年度 学校保健統計
- ※4:令和4年度 歯周疾患検診
- ※5:令和4年度 長寿歯科健診

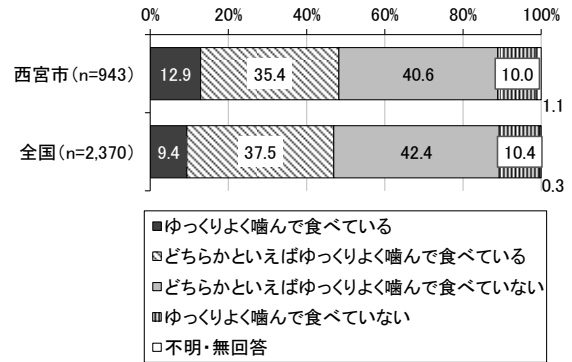
### 【これまでの取組】

- 市内の保育所・学校園等において歯科健診の実施とはみがき指導、受診勧奨等を実施しました。
- 就学前の子とその保護者を対象に「親子の歯の教室」及び「親子でむし歯 ZERO 教室（北部地域）」を実施し、乳幼児のむし歯予防や保護者の歯周病対策に取り組みました。
- 妊婦には妊婦歯科検診、40、50、60、70歳には歯周疾患検診、75、80歳には長寿歯科健診を実施し、歯科疾患の予防に取り組みました。また20歳には歯科医師会と協働で二十歳の歯科健診を実施しました。
- 西宮いきいき体操口腔版の普及啓発や口腔機能の維持・向上にむけたグループ支援を実施しました。
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組み、後期高齢者に対して生活習慣病の重症化予防や低栄養予防等、QOL向上にむけて、口腔機能の維持・向上や口腔衛生等について、個別支援（ハイリスクアプローチ）や集団指導（ポピュレーションアプローチ）を実施しました。
- NATSの4市（西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市）が連携し、府県の枠組みを超えて歯科保健に関する課題等に取り組む「NATSでいい歯プロジェクト」を立ち上げ、参画しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な事業を中止・制限することとなりましたが、可能な限り対応し、さくらFM・市政ニュース・市内掲示板・HP等、普及啓発に取り組みました。また、自宅のお風呂に貼れる口腔体操のポスターを作成し、オーラルフレイル予防に取り組みました。
- 大手前大学メディア・芸術学部マンガ専攻ゼミ生と協働で、20歳前後の若者向けの歯に関するリーフレット・ポスターを作成しました。

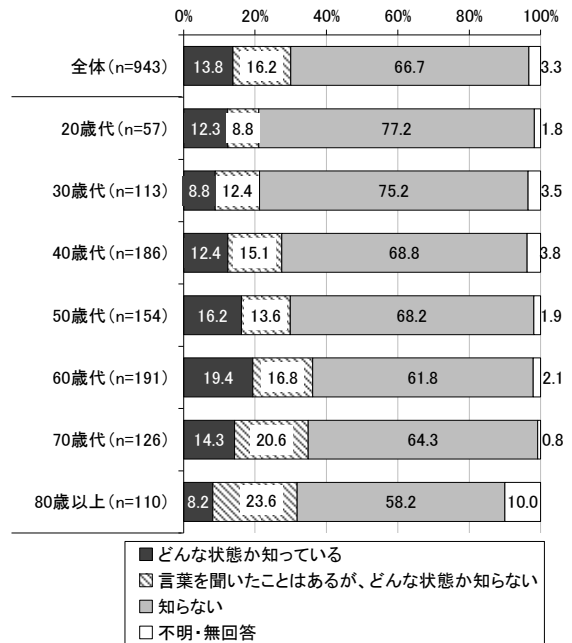
【現状】

- ▶ ゆっくりよく噛んで食べている人が12.9%で、国よりもやや高くなっています。
- ▶ かかりつけの歯科医を決めている人が64.9%と高くなっています。
- ▶ 歯間ブラシやフロスなどの清掃補助用具を使っている人、食後に歯をみがく人の割合が50%を超えています。
- ▶ オーラルフレイルを知らない人の割合が全体の約7割となっています。どの年代でも知らないという割合が高く、どんな状態か知っている人、言葉を聞いたことはあるがどんな状態か知らない人の合計は40%未満となっています。
- ▶ 定期歯科健診に行く人の割合、かかりつけ歯科医のいる人の割合が平成28（2016）年度と比べて増加しています。
- ▶ 20歳代の歯科保健行動が他の世代と比較して低いという傾向がみられます。
- ▶ 3歳・12歳のカリエスフリー（口の中に、むし歯・治療済みの歯が1本もない状態）が増加し続けています。

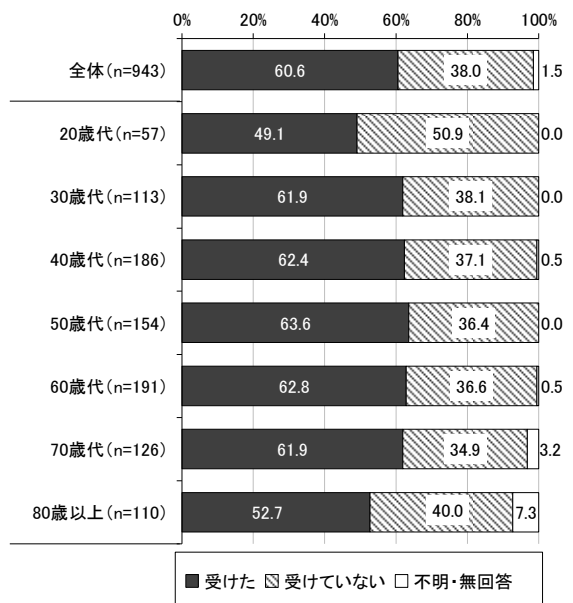
■ よく噛んで食べているか



■ オーラルフレイルの認知について



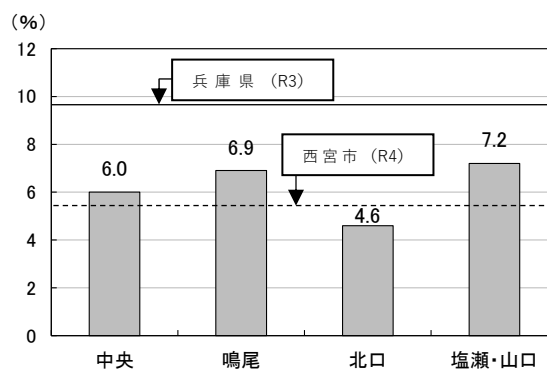
■ この1年間の歯の定期健診の受診状況



## 【現状】

▶ 3歳児健診における子供のう歯有病率をみると、北口地区が4.6%と最も低く、塩瀬・山口地区が7.2%と最も高くなっています。

## ■ 3歳児健診う歯有病率



※ 令和4年度 3歳児健診より

## 【課題】

- 歯・口腔の健康は全身の健康につながるため、定期的な歯科健診の受診率のさらなる向上、日々の口腔ケアの普及を充実することが必要。
- 20歳代をはじめとした若い世代に対し、歯科健診の受診勧奨、歯・口腔の健康づくりの啓発を充実するとともに、歯周疾患対策に取り組むことが重要。
- 各年代にあわせた効果的な事業展開に取り組むとともに、行政、家庭、学校、地域、職場、医療等が一体となって、市全体の歯・口腔の健康増進につなげていくことが必要。

## (7) 健康診査と健康管理

## 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成23年度)	中間見直し時 (平成28年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
①肥満者(BMI25以上)の減少	各種健康診査	17.2%	20.9%	—	12.6%以下	—	※1
	特定健康診査	—	20.3%	22.8% (令和3年度)	—	—	※2
②メタボリックシンドローム予備群の減少	各種健康診査	10.1%	12.2%	—	平成20年度比 25%減 (平成29年度)	—	※1
	特定健康診査	—	9.9%	10.5% (令和3年度)	—	—	※2
③メタボリックシンドローム該当者の減少	各種健康診査	14.8%	10.1%	—	平成20年度比 25%減 (平成29年度)	—	※1
	特定健康診査	—	15.7%	18.4% (令和3年度)	—	—	※2
④糖尿病予備群の減少	各種健康診査	14.8%	10.1%	—	7.0%以下	—	※1
	特定健康診査	—	17.9%	6.4% (令和3年度)	—	—	※2
⑤糖尿病有病者の減少*1	各種健康診査	16.6%	19.2%	—	9.3%以下	—	※1
	特定健康診査	—	11.0%	13.7% (令和3年度)	—	—	※2
⑥高血圧症有病者の減少*2	各種健康診査	54.2%	55.1%	—	48.0%以下	—	※1
	特定健康診査	—	45.3%	48.1% (令和3年度)	—	—	※2
⑦脂質異常症有病者の減少*3	各種健康診査	75.3%	75.7%	—	54.9%以下	—	※1
	特定健康診査	—	76.7%	78.4% (令和3年度)	—	—	※2
⑧西宮市国民健康保険特定健康診査受診率の向上		31.9%	35.2%	35.4% (令和3年度)	60.0% (平成29年度)	△	※2
⑨西宮市国民健康保険特定保健指導を受ける人の増加(実施率)		40.1%	43.9%	46.3% (令和3年度)	60.0% (平成29年度)	△	※2
⑩がん検診の受診率の向上	胃がん (40～69歳)	41.9%	41.0%	48.9%	50.0%以上	○	※3
	肺がん (40～69歳)	49.8%	43.5%	56.1%	50.0%以上	◎	※3
	大腸がん (40～69歳)	42.2%	44.9%	52.9%	50.0%以上	◎	※3
	乳がん (40～69歳)	40.1%	41.3%	51.1%	50.0%以上	◎	※3
	子宮頸がん (20～69歳)	34.9%	43.6%	51.2%	50.0%以上	◎	※3

指標	策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
⑪肝炎ウイルス検診を受けた人の割合の増加	18.1%	27.5%	33.5%	35.0%以上	○	※4
⑫骨粗しょう症検診の受診率の向上	1.7%	1.6%	1.7%	3.0%以上	△	※4

\* 1 糖尿病の有病率の算出基準

特定健康診査結果で服薬者または空腹時血糖 126mg/dL 以上または HbA1c6.5%以上の者

\* 2 高血圧症の有病率の算出基準

特定健康診査結果で服薬者または収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg 以上の者

\* 3 脂質異常症の有病率の算出基準

特定健康診査結果で服薬者または LDL コレステロール 120mg/dL 以上または空腹時中性脂肪 150mg/dL 以上または随時中性脂肪 175mg/dL 以上または HDL コレステロール 40mg/dL 未満の者

【目標値の達成状況】

◎:目標達成 ○:目標値に達成していないが改善傾向 △:中間見直し時とほぼ変わらず

×:中間見直し時よりも悪化

【現状値の出典】

※1:各種健康診査

※2:令和3年度 西宮市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導

※3:令和4年「西宮市健康増進計画」改定、「西宮市自殺対策計画」策定のためのアンケート調査

※4:令和4年度 肝炎ウイルス検診 骨粗しょう症検診

【これまでの取組】

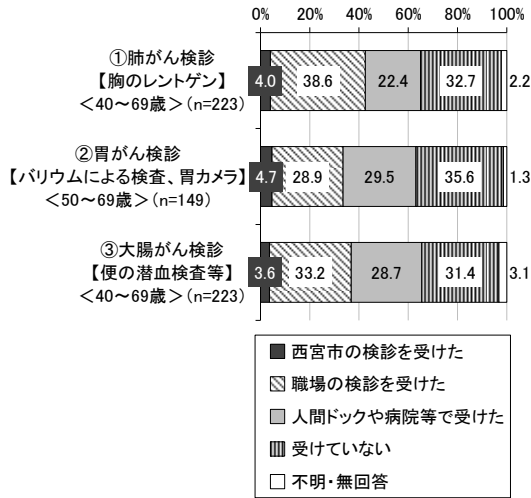
- ・「けんしんのご案内」を全戸に配布するとともに、市政ニュースや市ホームページ等を活用した啓発、市役所や関係機関でのリーフレットの配布等、健（検）診の受診勧奨と情報提供に向け様々な活動を実施しました。
- ・子宮頸がん、乳がん、大腸がん、肝炎ウイルス検診について、対象者へ無料クーポン券を送付し、受診勧奨を行いました。
- ・子宮頸がん、乳がん、胃がん検診に関して、受診勧奨はがきを送付し、受診勧奨を行いました。
- ・令和3年度より、胃がん（内視鏡）検診を開始し、検診体制を拡充しました。
- ・20歳から健康診査を受けられるよう、すこやか健康診査の対象を拡充しました。
- ・若年層に対し、がんに関する知識の普及を図り、二十歳のつどい（成人式）での普及啓発、大学での講義、市内大学へポスターやリーフレットの設置等、情報提供や受診勧奨に取り組みました。
- ・図書館と協働でがんやがん検診に関する図書展示を設けました。
- ・がん検診等の結果や精密検査の受診歴をパーソナルヘルスレコードとし、本人がデジタル上で閲覧し健康管理が図れるよう環境を整備しました。



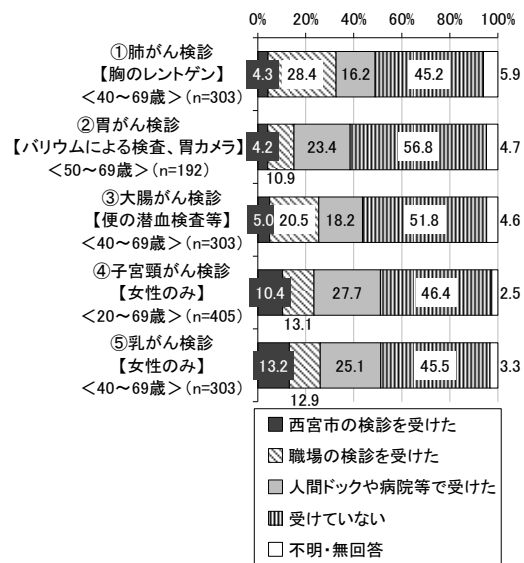
【現状】

- ▶ 男性では、どの項目のがん検診においても受診率が60%を超えています。
- ▶ 女性では、子宮頸がん検診と乳がん検診の受診率が50%を超えているものの、胃がん検診の受診率が40%未満となっています。また、胃がん検診と大腸がん検診では受診していない人の割合が50%を超えています。
- ▶ 平均寿命、健康寿命ともに県平均よりも高くなっています。

■ がん検診の受診率(男性)



■ がん検診の受診率(女性)



※ がん検診の受診率は、40~60歳代を対象に、「市」「職場」「人間ドックや病院等」で受診した人から算出しています。なお、胃がん検診は50~60歳代、子宮頸がん検診は20~60歳代を対象に算出しています。

【課題】

- 健康寿命の延伸に向けて健康づくりを継続するとともに、重要な疾病の早期発見・早期治療につながる健康診査の重要性を啓発し、受診率のさらなる向上に取り組むことが必要。
- 継続して受診勧奨に取り組むとともに、特に女性のがん検診の受診率の向上にむけた取組をより一層充実することが必要。

## (8) 食育

### 【目標値達成状況】

指標		策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
食育に関心を持っている市民の割合	全体(15 歳以上)	78.1%	67.5%	72.6%	95.0%以上	○	※1
	男性	69.5%	58.7%	66.8%	90.0%以上	○	※1
家族と同居している人のうち、食事を1人で 食べることが多い市民の割合		10.0%	13.9%	12.0%	5.0%以下	△	※1
食事のあいさつができる 子供の割合	保育所・幼稚園児	73.9%	70.3%	59.5%	100.0%	×	※2
	小学5年生	76.4%	74.8%	72.0%	100.0%	△	※3
食を通じたコミュニケーションを心がけている 市民の割合 (いつも心がけている、または心がけている人)		54.1%	49.4%	47.3%	85.0%以上	△	※1
食べ残しや食品の廃棄を減らす工夫、努力を いつもしている市民の割合		60.3%	64.8%	57.2%	90.0%以上	×	※1
農業体験を経験したことがない市民の割合		28.1%	32.3%	30.9%	15.0%以下	△	※1
毎日朝食を食べる 市民の割合	保育所・幼稚園児	97.1%	95.2%	94.2%	100.0%	△	※2
	小学5年生	91.6%	88.4%	87.1%	100.0%	△	※3
	全体(15 歳以上)	88.5%	85.7%	84.4%	95.0%以上	△	※1
	20 歳代男性	56.5%	62.0%	72.4%	85.0%以上	○	※1
主食・主菜・副菜を組み 合わせた食事を1日2回 以上ほぼ毎日食べてい る市民の割合	全体 (15 歳以上)	—	51.4%	48.4%	70.0%以上	△	※1
	若い世代 (20 歳代、30 歳代)	—	38.3%	35.1%	55.0%以上	△	※1
「栄養成分表示」を参考にしている市民の割合		56.1%	53.7%	53.8%	75.0%以上	△	※1
メタボリックシンドロームの予防・改善を 半年以上継続的に実践している市民の割合		27.8%	28.6%	32.0%	70.0%以上	△	※1
ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 (ゆっくりよく噛んでいる、どちらかといえば噛んで いる人)		—	46.6%	48.3%	55.0%以上	△	※1

### 【目標値の達成状況】

◎: 目標達成 ○: 目標値に達成していないが改善傾向 △: 中間見直し時とほぼ変わらず  
×: 中間見直し時よりも悪化

### 【現状値の出典】

- ※1: 令和4年「西宮市食育・食の安全安心推進計画」改定のためのアンケート調査
- ※2: 令和4年 幼児期の食生活アンケート調査
- ※3: 令和4年 学童期の食生活アンケート調査

**【これまでの取組】**

※ これまでの取組について、「(1) 栄養・食生活」と重複する内容は省略しています。

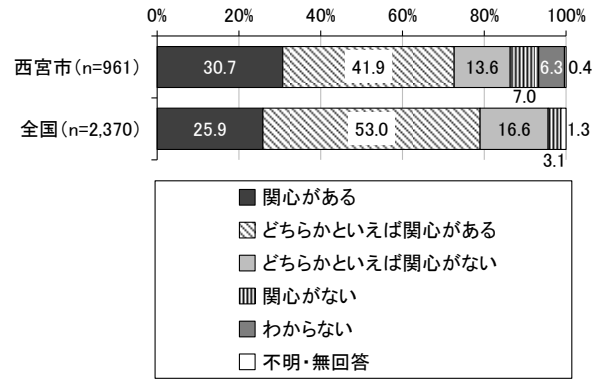
- 市内の大学や食品関連事業者等と協働し、食育や自分自身・家族の健康について、関心を持ってもらえるよう、イベントや調理実習等を実施しました。
- 子育ての心配事を軽減するための情報提供や交流の機会づくりを行っており、その中で食育に関する講座や情報提供を実施しました。
- お客様の食べきれる量の要望へ対応するよう飲食関係事業者へ協力を依頼するとともに、啓発POP や商業施設のデジタルサイネージを活用するなど、食品ロス削減の啓発に取り組みました。
- フードドライブ用のボックスを市内スーパーに設置し、フードロスの削減に取り組みました。協力事業者が増加し、回収量も増加しました。
- 地域の野菜への関心や地産地消の促進を図った直売所マップの作成のほか、農業祭等を通じて啓発と作り手の意欲向上に取り組みました。

**【現状】**

※ 現状について、健康増進の「(1) 栄養・食生活」と重複する内容は省略しています。

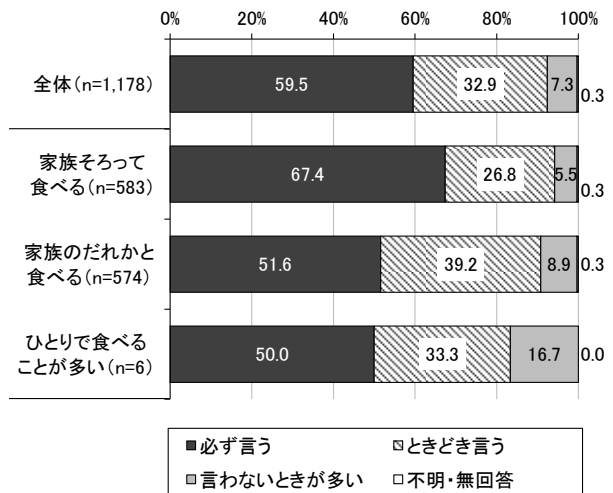
- ▶ 食育に関心がある人、どちらかといえば関心がある人の合計が 70%を超えており、国よりは低いものの、平成 28 (2016) 年度から増加しています。
- ▶ 「家族と同居している人のうち、食事を一人で食べることの多い市民の割合」、「食を通じたコミュニケーションを心がける市民の割合」は、ほぼ横ばいで推移しています。
- ▶ 保育所・幼稚園児において、食事のあいさつができる割合が減少しています。また、1 日 1 食でも家族のだれかと食べる家庭に比べ、家族そろって食べる家庭ほど、食事のあいさつができる割合が高くなっています。
- ▶ 食べ残しや食品の廃棄を減らす工夫、努力をいつもしている市民の割合が減少しています。
- ▶ 環境に配慮した農林水産物・食品をいつも選んでいる人は約 1 割と少なくなっています。
- ▶ 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ際に、近隣地域で生産・加工されたものを選ぶ人が多くなっています。
- ▶ 今後食育として力を入れたいこと（既に取り組んでいることを含む）について、栄養バランスのとれた食事の実践が 64.7%と最も高くなっています。
- ▶ 非常用の食の備えについて、用意していない割合が 21.9%となっています。

**■ 食育への関心**



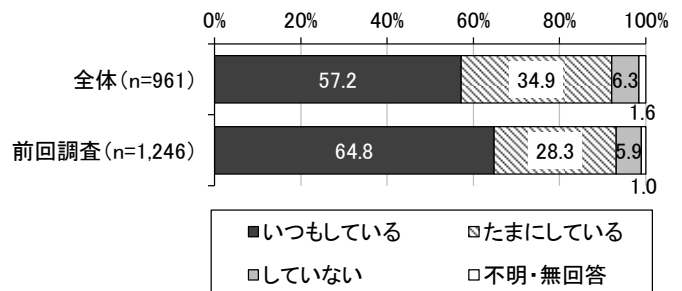
**■ 食事のときに「いただきます、ごちそうさま」を言うか**

(家族と1日1食でも食事をするか別集計)



※ 幼児期の食生活アンケート調査より

**■ 食べ残しや食品の廃棄を減らす努力、工夫をしているか**



【課題】

《食事を通じたコミュニケーション》

- 核家族や共働き家庭の増加等、家族との共食が難しい状況も踏まえながら、家庭だけでなく様々な場面で共食の意義や重要性を継続して啓発するとともに、子供から大人まで食の楽しみやコミュニケーションのさらなる浸透を図ることが必要。
- 生活習慣の基礎が形成・定着する幼児期や学童期を中心に、食事を通じたコミュニケーションを推進し、食事の楽しさを伝えることで、食事のマナーや食文化の継承を推進していくことが必要。

《食への感謝、環境へ配慮した食生活》

- 持続可能な食生活の実現に向け、環境問題の視点を取り入れながら食品ロスを減らす取組を啓発していくことが必要。

《食事のバランス》

- より多くの人々が食育に関心を持つことができるよう食育の取組や啓発を継続するとともに、食育を自分事として考えてもらえるようにすることが必要。
- バランスのとれた食事の実践に力を入れたいと考える人が多く、バランスの良い食事の実践を促す取組が必要。
- 手軽に取り組める食事のバランスの改善に関する情報発信など、実践のハードルを下げる取組の充実が重要。

## (9) 食の安全安心

### 【目標値達成状況】

指標	策定時 (平成 23 年度)	中間見直し時 (平成 28 年度)	現状値 (令和4年度)	目標値	達成 状況	出典
集団給食施設の年間食中毒発生病数	1 件	0 件	0 件	0 件	◎	※2
市内製造の食品について規格基準の年間違反件数	0 件	1 件	1 件	0 件	△	※2
食品の安全性に関する基本的な知識を持っている市民の割合	42.6%	35.0%	42.2%	70.0%以上	○	※1
リスクコミュニケーションについて言葉も意味も知っている市民の割合	21.6%	7.9%	7.6%	60.0%以上	△	※1
食品表示を確認している市民の割合	84.5%	83.1%	74.5%	95.0%以上	×	※1

#### 【目標値の達成状況】

- ◎: 目標達成 ○: 目標値に達成していないが改善傾向 △: 中間見直し時とほぼ変わらず  
×: 中間見直し時よりも悪化

#### 【現状値の出典】

- ※1: 令和4年「西宮市食育・食の安全安心推進計画」改定のためのアンケート調査  
※2: 令和4年度 食品衛生課データ

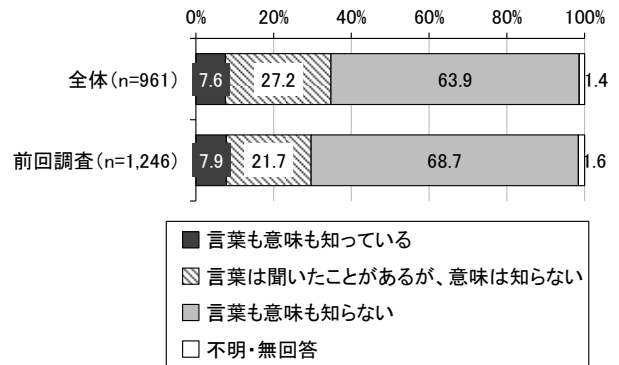
#### 【これまでの取組】

- ・食の安全安心を普及するため、食の安全安心講演会、夏休み親子講習会、地域食品衛生出前講座を開催しました。
- ・事業者を対象に食中毒防止に関する講習会を開催しました。
- ・西宮市食肉センターで食用に供される牛・豚の全頭と畜検査を実施しました。

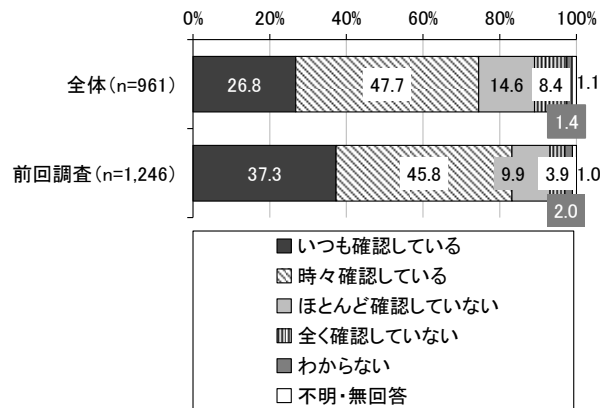
【現状】

- ▶ リスクコミュニケーションについて言葉も意味も知っている人の割合は 7.6% で、ほとんど横ばいで推移しています。
- ▶ 食の安全性について知識を持っている、どちらかといえば知識を持っている人の割合が平成 28 (2016) 年度から増加しています。
- ▶ 食品を購入する際にパッケージの表示を確認する人の割合が平成 28 (2016) 年度から減少しています。
- ▶ 集団給食施設における食中毒の発生はありませんでした。
- ▶ 市内製造の食品について、規格基準の違反が1件ありました。

■ リスクコミュニケーションの認知



■ 食品を購入する際に、パッケージの表示を確認しているか



【課題】

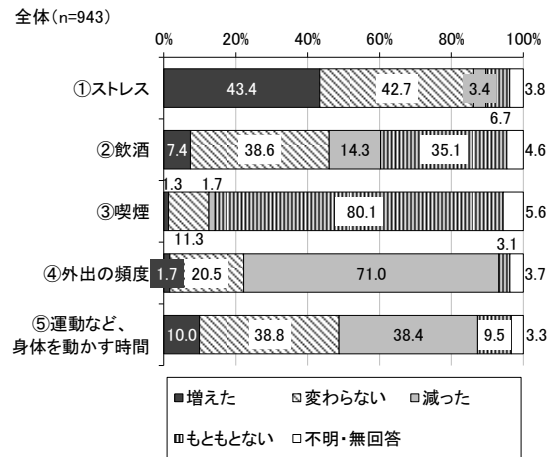
- 引き続き、西宮市食品衛生監視指導計画に基づき、重点的、効率的かつ効果的な監視指導を実施することにより、市民の食の安全安心を確保していくことが必要。
- リスクコミュニケーションという言葉の意味を知っている人の増加など、さらなる普及啓発の充実が必要。
- 食品を購入する際にパッケージの表示を確認するなど、食の安全に関心を持ち、実践できるよう行動変容を促すことが必要。

## (10) 新型コロナウイルス感染症(分野横断的な課題)

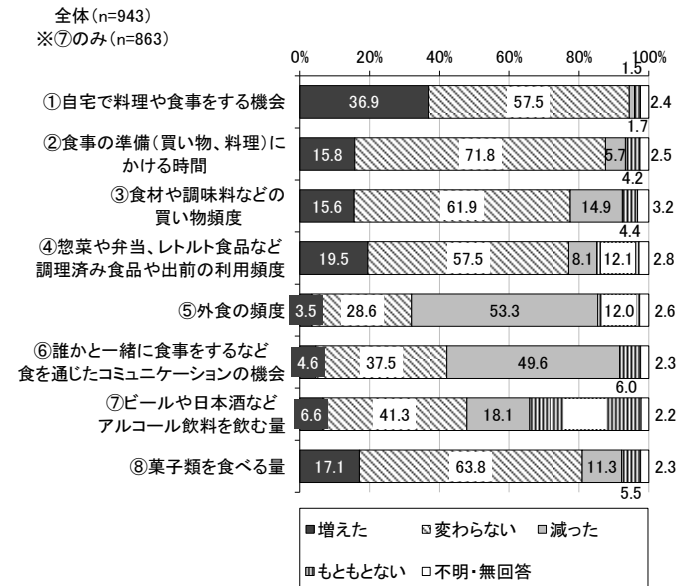
### 【現状】

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響について、外出の頻度が減ったという人の割合が70%を超えています。
- ▶ 身体を動かす時間について、変わらないと減ったという人の割合がそれぞれ約4割となっています。
- ▶ 食事に関する新型コロナウイルス感染症の影響について、外食の頻度や誰かと一緒に食事をする機会が減少している人の割合が高くなっています。
- ▶ 自宅で料理や食事をする機会が増えたという人が3割を超え、他の項目よりも高くなっています。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため、医療機関や歯科の受診を控えている人は1割未満となっています。

### ■ 新型コロナウイルス感染症の影響



### ■ 新型コロナウイルス感染症の影響(食事)



### 【課題】

- アフターコロナ、ウィズコロナ、新たな感染症の流行対策を視野に、ICT や SNS を活用したつながりのあり方の検討、家でもできる運動や健康づくりの普及啓発を充実することが必要。